

關氏外科秘傳

F
才-16

494.2
01-5

阿蘭陀外科



富士川文庫
2976

No. 209

阿蘭陀外科書目卷上目録

瘰癧疽陽症一 瘰癧疽陰症二

乳瘰 三 乳岩 四

肺瘰 五 腸瘰 六

氣府瘰 七 自發瘰 八

自濕發瘰 九 自膽腑發瘰 十

囊瘰 十一 懸瘰 十二

腎囊風 十三 石瘰 十四

附骨瘰 十五 石榴瘰 十六

緩疽 十七 腕疽 十八

疥瘡

十九 瘰癧

九

流注

廿二 火丹

廿二

大麻風

廿三 骨槽冷

廿三

鷲掌風

廿五 凍風

廿五

鶴膝風

廿七 人面瘡

廿七

眼胞菌

廿九 白禿瘡

廿九

瘰癧

卅一 麻疹

卅一

黑白癩風

卅三 痣疔

卅三

便毒

卅五 下疳瘡

卅五

氣腫

卅七 馬刀瘡

卅七

風毒腫

卅九 癭瘤

卅九

鼻茸

卅一 耳病

卅一

丹毒

卅三 鴈瘡

卅三

腺瘡

卅五 血止

卅五

金瘡

卅七

卅七

癰疽陽症一

證治指南二曰癰疽之陽症

者腫大之瘡之色赤而ウルシク

色付痛強寒ケタキ熱氣傷

寒ノ如キテ瘡ノ威勢恐ケニ

見テハ陽症也然熱疼痛ニテ

病人患ルハ瘡ノニサニウニトテ

故也世俗ハ怒レ醫師ハ不恐ウモ安ク

愈安キ症也能ウニセテ口ヲ開キ

熱ヲ痛ク止ル療治有大夏有電

之策ニアラスニハ不可用之唯外治

許ニテ能愈也

阿蘭陀カ曰クニフリーストヤキハ

木綿ニ伸テ其中程ニ井クモ

ハシリクニシテ瘡ノ頂ニ可付早

ウミテ口開セロツ開テ後ハ木綿

ヲホツリメイキヤソ捲右ハシリクニ

塗テ口ニ指入其上ニ五ラフテヤルニ

ツ貼ヘシ次第ニウミ去愈肉上リ

平愈ス毎日膏羊シ平膿シ出

スシメトヤ膏羊毎日切ヘテ其

上膏羊ハ二日三度三日一度

ニテ良若能ウミニセ皮面口開

難シハ見合切ヘシ瘡ノ大小ニ

口大小有針ニモ大小有剪開テ

後ハ木綿ノホツリシ平クヤ捲

右ノバシリクニ井クモニテアホ不口

ラ加テ平クヤニ塗付テ貼シ其

上ニヤルニ打ヘシ其上ラ木綿ニテ

卷毎月如此右初卷ニ熱氣甚

痛強トテ内茶不可用熱氣強

痛建ハウニトスル故也何ノ瘡

ニ治療同前也

△癰疽陰症一

證治曰陰症ハ初癰ニ瘡底赤

粟粒ノ如形而不腫不赤不痛身

熱スルヤウニ瘡ノ生ル処モサノミ

不熱心患キ事モ有七八月以後

身草卧タルヤウニシテ腫上ルト云

此不高瘡ノ根廣リシニラス腐

テモ無膿血上階端高キヤウ也不

食ニ身寒クシテ心忪々タリ又瘡

上ニ衣ヲキセタルヤウニ導物有膿

臭起即難成モノ云々言弱不

續瘡ノ色紫黒ニハ面々青月貴

也瘡入テ鼻高ヒトリト云々口乾

舌強ル此症ヲ純陰ノ症ト色有

人ニ一人モ生ル者少也惡症之極也

阿蘭陀曰此症極テ大事也多

分不可治療治膿菜ヲ付テウ

ニセ口開クニ出ルニ於テハ百ニウモ

治事有ニ瘡愈ト云氏生命

難計ウニ膏月菜先丑ニフストク

ラニ膏ニククヨク木綿ニ伸テ

付ヨウニニ口開ル時膿拔ラ

マイナヤニ塗テ指入蓋ニ右タライノス
コニルツクヨヨシ付ヨ瘡色能成リ
腫ヨリ膿ノ色モ能成タル時不苦
其時ハ右ノ陽症ノ茶ニテ可治若
右ノ茶ニテ不膿時ハ右ニラストハス
ラケニラスシ如毎付テ其上ニ鉛シ
薄伸テ水銀シヌリテ膏月茶ノ上ニ
蓋セ其上シ木綿ニテ巻置引上
ケウニスル療治也膿タル時ハ治方右
相前也 阿蘭陀曰瘡ニ臭キ膿
出ルニ於ハロラ廣前カ開其際ヲ

リヨヒワトルヨウロシ入テ其上ニ
ヌストハスラケニラスラ貼ヘシニ日程メ
死肉ヲ破去テ赤肉ニ成タル時
クエンタテキステイフニシマイチヤヒ
茶内ニ入其上ニ五ニラストハスラケニ
ブスシ打ヘシ能ウニ出セウニ去愈因
ヒリタル時ハ右ニラストテヤハルニ
シ打ヘシ若熱メウニ黒ハ瘡廻リニ
共クエンタルフニカサフトニ塗テ
良黒キ膿出ルハ阿蘭陀ハ實症
治法也若脚弱ク食不進瘡成

勢弱ク病久草卧大事ニ及テウ
ニ焦タル色相有テ黒ハ阿蘭陀カ
曰治方難シト名逸之内氣ヲ用テ
ウミノ色有リ食次第ニ進ニ脈カ
出来タラハ治ヘシ大事ノ症也

傳ニ曰癰ノ初發ニ心腫物ノ上汗ハ
之發ルシヒ有目ノ内赤ク吐逆ノ心
有瘡ノ上ニ灸シスヘシ其後灸
跡ニ針シニテ血成凡水ケ成凡出
其跡ニハシリヨニロツフトウリヨシ
等分ニ合メイ子ヲニ塗針中棉

込其上ニハシリヨニ赤身ノ分ニ塗針
其上ニ丹ニララストシシイヨロニヨシ
木綿ニ伸テ四五ヘシニミタニニカケテ
付其上ヲ木綿ニ三四五篇卷置
也膏ニ度宛付換ルニ三日ノ内ニ
底ノウニ有処ニ糸カ届也其ハ
時弥ロシハ針ニテ廣深ク開ウ
ミシ出ニハシリヨニアホストロウルニ等
分ニ合メイ子ヲニ塗腫物ノ口ニ指上
ニハ灸ラ合エフスシ木綿ニ伸テ付
其上ヲ卷也始此一日ニ度宛糸シ

付換ル是ニテ膿ヲ去愈肉上ラハ
テ者ステネトフニツメイ子ヤニ塗内
痛蓋膏月菜是也ニフアリスト
カラカテイヤ付テ吉肉十分ニ成
タル時テヤルニ或テヤホシホリユ杯
ニテ皮ヲ生メ吉大方一切ノ腫物
如右ノ療治ニテモ不愈ニテハク
サリタラハ腐肉タル肉皮ヲ掬ミ切也
膏月菜ハアホストロウルニムスラケキ
フスノ類シ付ル也腐肉肉皮ノ腐リ
テ切テ血出ル時血止ニ相鼠紙ニ

巴豆ノ油ヲ打付其上ニ光明米并
付テ置スラケテ付ル也其上ニ菜ノ
付様右同也是ニテモ腐肉不止特
ハ燒金シ腐肉リ肉ニ當テ跡ノ療治
右同前是ニテモ不止時ハ癩蓋ハカクシ
シ四五疋集テ巴豆四五疋ハカクシ程入
明凡三分程入黒燒ニメ腫物ノ腐
深处ニ捻掛木綿ノホウリ計内へ一
重入其上ニムスラチニブスラ打也
木綿ニテ卷置右同前是ニテモ不
止時ハテアルテイヤラメイ子ヤニ付テ

一盃入上ニシシイコロシヨシナシ其
上シ木綿ニテ巻也是ニテ大方愈
當由甚ハ洗茶ニモ洗テ良

△洗茶ノ方

乳香 五文

没茶 五文

ホクワリカセリ

ホクワリカセリ

五ルハナシタ 撮

ラアテキスチイ十文

フラシタヒイニヨ

右水一升五合入五合ニ煎シ查去能耶

減ニ温メ洗水氣シ取付茶右同前内

茶ハ腫物潤膿外ハ出ルヤウニ可月右

瘰癧ニ症トニ療治如斯

又曰阿蘭陀南蠻流ニ灸スセズ惣

而阿蘭陀南蠻人ハ生得熱性也故

ニ常ニ汗澤ノ穴ヨリ血ヲ取也然從

日本人心灸治スル多吉初灸灸

スルニ痛甚ハ膿深有故也其時

ハ痛ノ止ニテ灸スヘシ又初灸灸ス

時少モ不痛ハ病浅シ痛ノ出ニテ

灸也 阿蘭陀山瘰癧大ニ腫熱甚

ク赤身有テ疼痛シ腫物ノ上

ニメヨスルヤウニ有時ハハシリニ灸ス

ラケニラステヤキロシ右三色等分ニ
合テ腫物ニ付テ 付スイニ大ウツト
有る色合温木綿ニ付腫物ニ一盃ニ
付ル其ニテ七腫不上時ハ (合)ハハスシ
付ル若痛難堪時ハ尺澤ノ穴ヨ
リ血ヲ取也腫物膿クル時ハ針ヲ
刺也サナキ時ハ ツクリヤクイニツフトウリヨシ
ニテロソ開口開テ後ハテキスリ
イフンハシリヨシ等分ニ合メイ子ヤ
ニ塗指入ル膿少ク成ルハテキ
ステイフニアホストロウルニ ニ等

令ニ合メイ子ヤニ塗指入ル肉有ハ
并シテラフメントニテ洗也腸 (腸)廣ク成
ハラフメントニイケヒニヤコシテ洗
上ニ膏ヲ付置也但初癰ニ強
痛ハ下シテ用ヘシ

△下葉ノ方

カヨハ 代ニ野菊 四文 代ニ紫葉 マツワカン 三文

右ニ色抹メ湯ニテ二度ニ用此葉用
ニ後風ヲヒカヌ様スル也

△乳癰

一乳房ニ出タル癰也治方大方右同

前也針方以傳有是也

阿蘭陀曰乳癌初發身色二赤

宛疼痛三時々振付有テ乳左

右上下ヒキツル様ニ有テ胸ニ通次

才ニ腫痛甚クシテ口モ不見身

色ニ有時メリロウトシシイヨシ

ヲ等分ニ合テ温テ上ニ付ル也但

内ニ乳汁有ハントウサテ吸セヨ

良右ノ葉ニテ腫不耗ハ

メリロウテ

カモメリ

白ハテ

葵葉

...

右四色濃々煎出シ

葵根

胡戸

小麻仁

山牛房根

右四色細抹メ右ノ煎汁ニ揀合

合木綿ニ厚伸テ乳ニ付ル是ニテ

七腫ヘラスンハ腫物ニ成也其時テ

ヤキロシヨム々スムスラケニラスホ分ニ合

葉ニハハシリヨシ付テ付腫タル

時所シキハメテロラ開ヨメイ子ヤニハ

ハシリヨシ指入ヨ土肉有ハアホストロ

代明心ノヤカカニモ
是ニヒタアハ杯ノ加テ付ル何ノ瘡ト
同前

乳癩下シ之

ホウリセイナ 四分
大黃 四分

アトニイシ 四分
ニグリ 四分

右四色抹メ水天目ニ盃盃入壺ニ入一
夜熱灰ノ中ニ置翌朝煎半分
成タル時ニヘキニヨア、メ三分燂
一度ニ天目ニ宛用一日ニ度也

乳岩

一乳岩ハ乳房ニ久塊有テ次ニ是ニ

成後ニ腐肉ニタハシル出ル膿ハ不出
ニテ瘡ノ口ニ取付テ有次才ニ舌廣
成木凡ノ腐肉タル如有也岩元ノ開
タルヤウニシテ硬シ故ニ乳岩ト通
早歳以上ノ女ハ治ニ難ニ大事也

アメントノ油 一匁
椰子油 一匁
白蠟 一匁

右井クエシタニ煉テ乳ニ付ル毎日付

塊ニ付テ和ニ成メハ汁カ膿カニ

成テ出愈也乳岩初祭乳ノ底

ニ塊有テ二年モ有テ次才ハ腫エリ

口開膈深入テ牛ノコブシシ入ル程
 ニアキ治難ハ腫物一盃ニメ
 ヤシ入ル也ハヤシハ
 イケビシヤハハシリハ大
 テキステイハ大
フラシハイハニヨ
ニテ能加減ニトキ平メイヤニ
 塗腫物ノ口一盃ニ入ハハハス
 茶シ付ル其後土肉モ退腫物
 色有リ正肉ニ成タル時愈膏
 茶シ貼ス下ハ乳癧ノ下ハ良

△肺癰五

一證治曰肺癰症惡寒發熱咳
 嗽ハ後熱氣ハ醒ハ咳嗽不止胸
 中痛痰ニ血交膿出痰ノ白甚
 臭ハ早ク不愈時必死也

何蘭代曰膿ハ吐盡ハ愈也又曰内癰

ハ是肺癰也付茶ハ

- アハルトハ豆ハハハ文
- ケハワハハハ文
- カハモハリハ花ハハハ文
- ヒハイハコハイハハハ文
- ナハニハンハハハ文

右五味抹メ燒酒ニテ膏月茶ノ如ク煉
 合ハテハレハメハシハテハイハナハシハハハ文

アサリヨリイニ

十五文加テ

煉合テ胸ノ痛処ニ付ヘシ又曰肺癆
箇食或熱ノ食物或ハ酒杯シス
ガニ風熱肺經ニアタリ膿血ヲ吐出ス
有内葉ハ

芥根 セリノ子一撮

車草 ク

稻穂 イ子ノハ 三撮

續断葉 スサミラハ

山椒末

大茴香

小茴香

イソント

各一撮

麻梵草 一撮

右水五升入ニ升ニ煎詰テ駒引草

ノ花ノ蜜漬 シロハ 个シノ葉ノ蜜漬

各三文 アラキ酒 三文 右煎

汁ニ入煉一度ニ升ヨリ一ツ宛用ル

又リ口ナリ口ニ 三文入テ吉

△腸癰六

一腸癰トハ内癰也臍ノアタリ小腹ニ

生也臍ノアタリ硬小腹モ硬シテ内

女亢痛頰也臍ヨリ膿出ルモ有是

ハ惡也大便ニ膿出ルハ不若能膿出

事與愈也阿蘭陀曰此症ハ下シテ若

△下シテ方

野薔薇花 一撮

這狐草 一撮

小茴香 一撮

大黃 二条 半

アルワヒ 二条

行蓄 一

右並色抹メ水一升五合入一升二煎查
シ去シリヨロサ一ロシ少加能加減温
肛門ヨリ水突ニテ突合ル但三日三度
宛突合此下前二天黄一丈酒ニテ
七湯ニテ七用ル是切々如大便秘結
スレハ悪也

△氣痔瘻 七

一阿蘭陀目押テ見ルニ石ノ如ク有テ
身色ニメ腫上ト云氏硬ハ合スラテ
ニズスツ付テ和セ其後ウハスラ付ル
其ニテ不愈時ハメリロウトラ付ル此
腫物速ニ不治依テ一年モ半年モ
右ノ仕掛ニメ若膿タル時ハ如常療
治也

△自血生ル瘻ハ

一阿蘭陀目大ニ腫上リ色赤シテ甚
疼痛スル也先ムスラケニフスツ一兩
付テ其後ハシリコシ塗付上ニ
テヤキロシ付テウニセロシ開ル若膿
兼出時ハハハスツ掛膿シ出シメ

手ヤシ指テヤキロシ打膿血ヲ吸出セ
其後メイ子ヤニテキステイコシ指其
エニカラサテイヤ良

△自濕生疔 九

一向蘭陀曰身色ニメ頸ノ廻胸手足
ニ生ル色付ヤシ腫タル処ヲ押テ見
ハクホニ深処ヲ腫物ノ座トシテ先
早膿ニ下シツ用テ不冷ヤウニシテ
食物ニ干物ノ類吉或ハ雞ニ下
汁杯シ時々用テ良氣ヲ補身シ
燦ス様ニ養生メ良禁物ハ

生魚五辛一切青物熱物ヲ忌

右腫物ニ先ハ（合ス）ハスシ（ヤシ）樹ル方ハ

山灯心花 赤切草 野菊祀

這狐草 白（白）花（花）メ（メ）ン（ン）テ

ア（白）ル（白）ト（ト）シ（シ）花（花）半（半）房（房）小（小）麦（麦）粉（粉）

豚内油（豚）酢（酢）シ（シ）リ（リ）ヨ（ヨ）ラ（ラ）ウ（ウ）リ（リ）ニ（ニ）女（女）

セ（ア）ント（カ）ウ（ミ）リ（ミ）ヤ（ミ）ス（麻）マ（尾）ル（中）テ（子）イ（子）子（子）イ（子）子（子）

右花葉ノ分（イ）煎（イ）テ（テ）モ（モ）ミ（ミ）ク（ク）タ（タ）キ（キ）小（小）麦（麦）粉（粉）

ヲ入能モミ合（合）其（其）后（后）水（水）一（一）升（升）入（入）油（油）モ（モ）入（入）井（井）ヲ

ニ（ニ）タ（タ）ノ（ノ）如（如）煉（煉）テ（テ）温（温）成（成）内（内）ニ（ニ）木（木）綿（綿）ニ（ニ）塗（塗）腫（腫）物（物）

ニ付ル是能湿ノ物ヲ温敷ス一日ニ度

究湯テ付ヨ

△自臆府生凡癰十

一阿蘭陀曰肩頭廻出タガ物之
熱メ痛甚ク上ニ不腫粟粒如
ニ出底痛有也先テヘンシイ
シ付テ吉其ニテ七不治時ハ

金知查抹メ 醋少 水少

右銅錫アハ子ナバニ煉合湯成シ木綿
ニ伸テ腫物ニ付其上シ木綿
ニテ卷也一日ニ二度モ二度モ温テ
付ヨ若面ニ出ルニハ

車前草ウマノコ花水 卯白味

右三色ラニキニテ丸シシ明凡ノ塊シ以テ研濃スリ炭
タル付ルシ茶シ付タル上シ木綿
ニ熱キ湯シ浸腫物ノ上シ湯ヨ
二日ニ一度宛付替ヘシ右三色ノ水
シ明凡ニテ研レハカタニル物也

△囊癰十一

一證治曰此症ハヘンキニ出ル癰也
阿蘭陀曰此症未膿前ナラ

アインフラストトアスラケニフス 五ニフラスト
カリウワト 五ニフラストテヤキロシ

右二處シ合テ付ヨ膿テ口明サウ成
所ヲ見立其所ニ井シ多シタハシリニ
ツサ付テ其上ニ右ノ膏月茶シ付ヨ
口開テ後ハ如ク毎療治スヘシ右ノ
茶ニテ口開前ル時ハキシワキヘ相
ノケテ平シセイタニテロシ開ヘシ

△懸癩十二

一證治曰此症ハ蟻ノ戸渡ト云所ニ
出ル癩也 阿蘭陀曰治方如每ツ子ノ癩

△腎囊風十三

一證治曰此症ハノヨキニ痒成テ

タヘガタキ也強搔カキニヨリトスル時ハウロ

コ立難愈 阿蘭陀曰此症ハ

井シク又カテノイテシイトニ成スイトニシ切々付

テ良或曰陰囊濕リ痒時ホ

ワウ抹メ付ヨ又曰股内陰囊長トコニチニ

濕リ且臭チツ或瘡シ生ルニハ胡粉シ

付テ甚効有

△疽

一傳二疽ハ初発癩ニ似テ生ル方身

重クニテ汗バニモナクカハキヲラスト

氣越思ク五六日スキテ痛甚也

瘡程六無^{ウチ}早^{ウチ}裏^{ウチ}腐行也成
程灸スヘシ針深刺テ破也^{ウチ}口^{ウチ}フ^{ウチ}ト
ウリヨシ針目^{ウチ}挿込其上ニ
テルメシテイナシホウリニ温テ浸
付其上ニ^{ウチ}シ^{ウチ}ラ^{ウチ}ス^{ウチ}ト^{ウチ}シ^{ウチ}イ^{ウチ}ヨ^{ウチ}ロ^{ウチ}シ
ヨシ^{ウチ}木綿ニ伸テ付其上ニ木綿
ヲタ^{ウチ}ニ^{ウチ}ニ^{ウチ}三^{ウチ}篇^{ウチ}置テ其上^{ウチ}シ^{ウチ}長
木綿ニテ四五重モ巻置也一夜
内ニ赤色付腫上ルヘシ^{ウチ}翌^{ウチ}日^{ウチ}ヨリ
ハシリヨシ^{ウチ}ア^{ウチ}ホ^{ウチ}ス^{ウチ}ト^{ウチ}ロ^{ウチ}ウ^{ウチ}ル^{ウチ}ニ^{ウチ}守^{ウチ}分^{ウチ}ニ^{ウチ}合
メ^{ウチ}イ^{ウチ}チ^{ウチ}ヤ^{ウチ}ニ^{ウチ}塗^{ウチ}内^{ウチ}ニ^{ウチ}入^{ウチ}赤^{ウチ}身^{ウチ}ノ^{ウチ}分^{ウチ}ニ

ハシリヨシ^{ウチ}塗^{ウチ}木綿^{ウチ}ワ^{ウチ}タ^{ウチ}シ^{ウチ}ヒ^{ウチ}キ^{ウチ}ナ^{ウチ}キ^{ウチ}付
テ其上^{ウチ}ニ^{ウチ}ム^{ウチ}ス^{ウチ}ラ^{ウチ}ゲ^{ウチ}ニ^{ウチ}ス^{ウチ}ス^{ウチ}ラ^{ウチ}貼^{ウチ}ス^{ウチ}其上^{ウチ}
シ^{ウチ}卷^{ウチ}其^{ウチ}後^{ウチ}仕^{ウチ}掛^{ウチ}瘡^{ウチ}同^{ウチ}前^{ウチ}也^{ウチ}

△石疽 十四

一證治^{ウチ}曰^{ウチ}石^{ウチ}疽^{ウチ}ハ^{ウチ}疥^{ウチ}ノ^{ウチ}色^{ウチ}身^{ウチ}色^{ウチ}ニ^{ウチ}メ
硬^{ウチ}如^{ウチ}石^{ウチ}切^{ウチ}テ^{ウチ}モ^{ウチ}豆^{ウチ}腐^{ウチ}肉^{ウチ}シ^{ウチ}切^{ウチ}タ^{ウチ}ル^{ウチ}様^{ウチ}ニ
メ^{ウチ}膿^{ウチ}血^{ウチ}モ^{ウチ}チ^{ウチ}キ^{ウチ}物^{ウチ}也^{ウチ} 阿^{ウチ}蘭^{ウチ}陀^{ウチ}曰^{ウチ}早
治^{ウチ}ス^{ウチ}ル^{ウチ}時^{ウチ}ハ^{ウチ}切^{ウチ}ト^{ウチ}ル^{ウチ}也^{ウチ}切^{ウチ}様^{ウチ}大^{ウチ}事^{ウチ}有^{ウチ}正
肉^{ウチ}ト^{ウチ}瘡^{ウチ}肉^{ウチ}ト^{ウチ}見^{ウチ}分^{ウチ}切^{ウチ}ヘ^{ウチ}シ^{ウチ}若^{ウチ}正^{ウチ}肉^{ウチ}シ^{ウチ}
切^{ウチ}タ^{ウチ}ル^{ウチ}時^{ウチ}ハ^{ウチ}血^{ウチ}走^{ウチ}テ^{ウチ}止^{ウチ}リ^{ウチ}難^{ウチ}シ^{ウチ}切^{ウチ}ヘ^{ウチ}キ^{ウチ}所
ヲ^{ウチ}能^{ウチ}見^{ウチ}分^{ウチ}テ^{ウチ} ^{ウチ}肉^{ウチ}ヲ^{ウチ}切^{ウチ}テ^{ウチ}カ^{ウチ}ラ^{ウチ}ス^{ウチ}云^{ウチ}云^{ウチ}
ヲ^{ウチ}能^{ウチ}見^{ウチ}分^{ウチ}テ^{ウチ} ^{ウチ}シ^{ウチ}ツ^{ウチ}フ^{ウチ}ヤ^{ウチ}ー^{ウチ}タ^{ウチ}ト^{ウチ}云^{ウチ}業

一 時程付テハギ取切ヘシ切テ後ハ
金瘡療治ニスヘシ頭面ニ出タル瘡
ハ切ヘカラス瘡シ切時久ノ立サニ
切ヘシ横サニステカヒニ切レハ痛或血
走難正難愈口傳有ヘシ

△附骨疽 十五

一 證治ニ曰此症是ヲ付外股ニ出ル
也氣血不足ニ弱人ハ尻ノ大肉ニモ
カリ小腹ニモカリ又陰囊ニモ掛
ル也世俗ノ云ル風毒腫ト云類也但風
毒腫ハ皮肉ノ中ニ有故ニ腫上ル也

附骨疽ハ骨ニ付テ有故ニ腫上
ル也無是初ハ風シヒキタル如寒熱
有テ煩ヒ其内ニモヒラ腿^{ウデモ}筋骨
痛身シウゴカス更難成此症脚
氣杯ノ様ニ見テ故ニ用茶^{ウチ}違^{ウチ}終
此症上成膿テ自口開テ難愈
内^ナ外^ゲ療治^{チカヒ}違^{ウチ}時ハ世ノ闇^{クマ}人ト
成也初癩ノ時能内^ナ茶^{ウチ}用ハヤカテ
愈テ疽ニ成更^{ウチ}ニ此症初癩ニ寒
熱有テ腫上リ腫タルカヒナクニ
ダリ腫身^{ウチ}躰^{ウチ}手足^{ウチ}コバリスクニ

痛骨^ニ附^ルモハ危^ク又腫所^ニモ不熱
不赤^クウニカ子^{タル}モ危^クシ口^開テ後
出^ルウニサ^ラリトメ水^ノ梯^ニメ勻^ク臭
痛^モ不^止腫^モ不^減目^々次^々瘦^セ
ソト口^ハ食^不進^ク口^乾不^止者^ハ死^也無
此^惡症^者魚^危可^治早^愈ス^ル者
多^ク阿^蘭陀^曰此^症腫^上リ難^シ
膿^モ遅^シ能^腫上^リ膿^様療^ス
治^スル^也 小^糸方
野菊^花 大^アソ^イノ^根 三^ニ
ホ^ロウ^リス^カモ^リニ^ニメ^リロ^ウト^ニ交^ニ
ホ^ロウ^リス^カモ^リニ^ニメ^リロ^ウト^ニ交^ニ
ホ^ロウ^リス^カモ^リニ^ニメ^リロ^ウト^ニ交^ニ

右^抹メ水^煎シテ查^シ去^テ

三^只粉^ニメ 小^麻仁^粉メ

煎^{タル}汁^ニ糖^ノ如^煉テ附^骨痛^ノ
処^ニ能^サグ^リ覺^テ下^ハハ^シリ^ユシ^シ
錢^程塗^付テ其^上ニ右^ノ糸^シ温^ク
テ木^綿ニ伸^テ付^ヘシ能^腫上^リ膿^ニ
ヘシ口^ノ所^ヲ能^見令^テ針^シ立^ベシ
口^開後^ハ常^ノ瘰^疔前^附骨^痛ハ
必^足外^股ニ生^ル也又^曰此^症温^下
氣^寒患^血ト^ニ種^ノト^コシ^リニ

平生初ハ少痛ニ筋骨痛様ニ
 止^ヤ或ハシヨリ三月七月又ハ辛
 年モ右通ニメ微ニ腫痛ニ甚ニ
 膿成テ破ル療治先下^シ用ル
 付菜ハムスラゲニスス ^カヤキロ
 テアルテイヤ 右ニ色シ合テ傳ル但
 ウムニテハ二日ニ度宛付替ルウニテ
 カラハロシ開メイチヤソ指スメイチヤ
 ニハバシリコニ ^テキステイフニソ指蓋
 膏月菜右ノムスラケニテス其後惡
 血膿モ不止時ハ洗菜ニテ洗テ吉

洗菜ノ方

口會 ^ニ文

没菜 ^ニ文

丹凡 ^五分

口アロ ^六文

ナルコニフ

燒酒 一斤

右煎解シ洗也穴深ハ水突ニテ
 洗ヘシ其時ハ蓋膏月菜ニテヤル
 シ傳テ吉

△石榴疽 十六

一證治 曰石榴疽ノ症ハ肘ノ尖一寸程
 上ニ生ル物也初ハ粟粒ノ如成物粒
 出テ根ハ大ニメ色毒硬石ノ様ニ

手後ハ皮破テ赤ク石榴皮ヲ全
タル如粒々トシテハイクワモ有折々
タル汁流也難愈物也

阿蘭陀曰初発時立止ニテワリ惡
血ヲ去テヤハルニシ付ハニ年久腐廣
リタルハシリヨヒワトルヨウロニシ付テ
惡肉惡血ヲ去漸々ニ愈ヘシ

△緩疽クニ 十七

一證治ニ曰緩疽ノ症ハ腫タルサカヒ
モナクニダリニ腫瘡頭不尖色
モ不付シテ風毒腫ノ類也

阿蘭陀曰スラギニブス木綿ニ
伸其中裡ニハシリヨニシ塗付ヨウ
ニテヨリ針ヲ刺ロシ開如毎瘡

治ニテ者

△脫疽ダツ 十八

一證治ニ曰脫疽ハ多分手足ノ指ニ
生其初発ニハ粟粒ノ如成物出
ヤカテ腐膿付也汁ハ出ルト云見
タル所ハ執タルヤウニ見ル也又腫テ
甚赤ク鼻サシムケカダニ程臭ク
四カニ黒ク成テ次第ニ指ノ根至

手背手足ノ甲ニテ齧行物也指ノ
フシヨリ切レテ落ル針ヲ刺ヤウニ痛
也脉強食ニ進ミ氣色能人可
治若不食ニ氣色惡人ハ治ハカテ
又阿蘭陀曰先茶ヲ付テ指ヲ
キハ勝持カガツワリテ惡血ヲ出ス

△付茶ノ方

生姜 胡椒 小麦粉

右三色研合粘ノ如拵木綿ニ伸テ
温テ卷付ル一日ニ度又付換ル四
五月ノ指サキ勝持ノ所ニ立カテニ

四五分程ワリテ惡血ヲ出シ其後
木綿ニハシリコシテ伸テ可付又曰

大麦粉ヲ白蜜ニテ棟テ膏月茶
ノ如シテ付ヘシ右ノ茶ニテ不愈時ハ

大黃下シテ可用下シテ用麦ハ痛ノ
強クハカタキ時用テ下スヘシ又曰標疽ヒツツ

初灸ニ甚ニ痛難堪時針ニテ指サキ
腫物ノ所ヲ指ノ脇ヨリ骨ニテ屈程

ニ立カテニ割膿血ヲシホリ出シ燻酒
ツワカシ疵内ニ入タテ洗ニ洗テ其

エニテヤハルニ付ヘシ若惣ウテクモヤウ腕首

腫テ口所不^ハハ^リヨ^ロサ^ル
ロ^シラ^塗付^テ上^ニテ^ハニ^スイ^ケン^付付^シ

腫^レ減^ル也^傳言^標疽^初灸^女免^付

テ^痒押^テ見^レハ^女之^痛有^其時

早^指ノ^脇ヨ^リ針^シ刺^血ヲ^出シ^其

跡^ニシ^ハリ^ヨロ^サア^ロシ^シ
イハラフ^ル花^他 シ^ハリ^ヨロ^セシ^ト

ヘ^ト右^等分^ニ合^塗其^上ニ^テヤ^ル

付^ヘシ^是ニ^テ腐^行ハ^乳香^浸菜^シ

洗^菜ニ^テ洗^シメ^リシ^域取^テア^ホス^ト

ロ^ウル^ニハ^シリ^シ等^分ニ^合メ^イテ

ニ^塗テ^指入^其上^ニ合^スニ^キニ^ラス^吉

内^菜ニ^心シ^涼允^菜吉^腐肉^去膏

ニ^成タル^時テ^キス^テイ^フシ^メイ^チヤ

ニ^メ上^ニハ^テヤ^ルニ^シ付^ヘシ^肉十^分

成^{タル}時^ハテ^ヤル^ニ許^シ付^ニ皮^シ生

○^標疽^下ニ^シノ^方

大^黄 一^匁 麩^麥粉 一^匁

右^蜜ニ^テ丸^用又^大黄^粉ニ^メ湯^ニ

浸^一夜^置テ^翌朝^白砂糖^ヲ入

温^テ用^テ下^ル也[○]又^方
粉^ノ黒^燒
朱^カ色^付ホ^ト
右^カ他^ニ付

△^疔瘡 十九

一^證治^白疔^之症^毒外^科内^之

急亡極也朝ニ危メ夕ニ死者アリ。

一月半月ニ人死者モ有二月五日

六不死大略先五臓ノ疔アリ

心ノ疔シハ火焰疔ト云唇ノ内指

ノ間ニ生ス初癩ハ一点ノ泡ノ如シ其

色赤ク黄也痒痛不定重^{コト}時ハ

寒熱有肝ノ疔シハ紫蒸疔ト

云手足腰脇筋骨ノ間ニ生ス紫

シ包タル如也次ノ自破テ血水流ルニ

目過テ筋^{ワタ}ノ質^{クニ}骨^ノ爛^クシ^テ痛甚也

脾ノ疔黄鼓疔ト云ト云初癩ニハ

粟ノ如シテ黄色也其^ト赤シ^テ

眼^ノ目^ノ下^ノ月^ノフ^タホウ^ヒク^イ或^コカ

ニ^ニ生^ヒキ^ワリ^テ痒^ク強^ハル^重ル^時ハ

吐^逆シ^身半^足強^ハリ^痛寒^熱有

肺ノ疔シ自^ハ疔^ト云初癩ニハ

泡^シテ^自瘡^ノ頭^硬ク^根取^ル破

テ^白水^流痒^ク腐^肉久^ク重^ル時^ハ

腮^横ニ^明焦^身ノ^毛立^肌熱^ス痰

ニ^膿交^出テ^鼻息^急也

腎ノ疔シ黒^腐疔ト云耳ノ内^眵

腹^腰背^玉何^モ肉^和成^所ニ^生ス

初灸如泡紫色ナリ痛皮ヨリ肉ニ通
リ硬シテ針ニ通シタル如痛ニ骨
ニ通ルキ足青紫也心悸^{クレシク}志患^{シツク}沉
入タル如有ニテ自ノヒトニトカリ出是
五臟ノ疔ノ大聚也紫^{ヲホカ}疔^{ヲホカ}ニ其
異^{ワカ}有ト云氏其毒氣何モ不異
故ニ略之阿蘭陀ノ白疔^{クダ}也又鼻疔
初灸頭痛有腫物疼痛シテ赤
身根^{クダ}活瘡頭ニ粟粒ノ如出来ル時
醋ト水ヲ合温テ木綿ニ浸シ腫物
ノ上ニ付置ハ痛止也其後ハスラキニ

フステヤキロニ等分ニ合腫物ノ上ニ傳^{ツケ}
置テウミタル時針ニテ十字字ニ上
シタテワリ木綿ノホワリ許シ指置
翌日イケヒシヤミハシリコニテキス
テイフンニ三色等分ニ合メイテヤニ
塗指入ルニ三日如此ニテ無驗時ハ
シリコニテキステイフン右ニ色メイ
テヤニ塗指換ル是ニテモ肉上リ兼
時ハ洗菜ニテ洗也菜方

アルワイ
メラフ
アロシ花
右ニ色シ焼酒カアラキト云酒カ

ニテ煎テ洗付茶右同前也

又目唇ノ上下ニ生ル疔ニハ初発紫紅

ニシテ疼痛シ上下左右腫痛久カ

タキ時針ニテ上シ割膿血ヲニボリ

出シ 井ツエニメロサロニイケヒヤマ

ハシリヨシ右ニ色シ等分ニ合メイチヤ

ニ塗指置蓋膏月茶ハテヤルニ吉

傳ヨ疔初発ニハ上ニ膿ヲ持搜テ見

ハ硬スルド也疔ノ上ニモ灸スル也然

共頭面ハ陽氣既盛也故ニ灸セズ

シテ針ニテ破血ヲ出シテ吉引灸ハ

寒熱ニ不拘何ニモ用テ不苦

阿蘭陀ノ白此症ニハホウリセイナト云

木ノ葉シ酒ニテ煎白糖糰ツテ入テ

用テ吉若下戸ナラハ水ニテ煎白糖

糰入テ吞セヘシ一日ニ度 用也二日メノ

晩ニテリヤガツテ用ルニ日メニ尺澤ノ

坑ヨリ血ヲ茶碗一盃程取ヘシ

瘰癧

一證治ニ曰瘰癧耳根頸胸腋ニ生

腫塊ニテ硬シテ寒熱有セ有瘰

癧其名多ト云共治方異ルナリ

何蘭院曰初灸瘰癧ト送ニ見立
タラハ剪刀割アトシ金瘡療治ニ
ヘシ若久キ瘰癧トニテ黒身出タ
シハリヨトトルヨウロシ切タル
塗
金惡肉去テ兵金瘡療治スヘシ
丹凡ノ油シ付凡度ハ先切テ其跡
可付也

△流津ルシエ

一證治ニ曰此症ハ身軀手足何ノ
所ニモ出也瘰癧トノ如ク硬ク塊ト
ス或ハ出或ハ去マヨリカシコニワリ

行セ有又ツ出テ後其經チタヨリ
ニアタコナタニ出ルセ有也

阿蘭陀白アメシトノ油シハ乳内服
スルハ外ヘセキ出ス也其時何程ノ物
ト見立其品々ニ療治スヘシ壯盛チウセキ
ノ人ナラハ下シ用テ下スヘシ

△火丹ヒ

一證治ニ曰此症ハ身体ニ村雲杯
ヤウニハシリ出タシモ高ニアリ俗是
シハシリ草ト云赤クムラ雲ノヤウ
ニメ上ニ粟粒ノヤウニ出テ痒熱

スルモヤリ、黄色ニメタハ汁流タムテ
痛モアリ、阿蘭陀ノ曰

アイヒヤ
アリタアリヤ 二撮

エクリイアリヤ 二撮

子ハノ葉
ウウリセイナ 一撮

右三色煎朝夕用（シキノ尺澤ノ穴ヨ

リ血ヲ取テ吉又ハ井クエシタルフカ

シフラトシ 井クエシタノサノロシ右三色合

付テ吉此症大便ケウスル弥出ル物

也若大便結セハ大黃下シ用（シ輕ハ

シ草ニハ藍ニ染タル紙ニ大麦粉

シ塗付テ草ニアテ置ヘシ

△大麻風 廿三

一證治ニ曰此症ハ癩瘡ニ似テ實

ハ癩ニ非ヌ初癩ハ先麻木不仁

テ手足身体シビレスクミ肌吾身

共不覺疹ナトトヤウニ赤ニカ成物

出テ久時ハ潰爛シテ又浮腫ニ無

膿此症五品有、肉死ト云ハ麻木不

仁ニテ切テモ燒テモ痛ヲ不覺五

死ト云ハ潰爛シテ又ハ汁流指ノ筋

ハヨリ切落ル、骨死ト云ハ鼻落也

或ハ月損ルモアリカウニ面紫色ニラケルモ
 有全体ニ小瘡出ルモ有眉ノ毛落
 ルモアリ足ノ裏ニ穴アケモ有是シ
 五敗ノ症ト云難治早ハ治スヘシ
 阿蘭陀ノ白茶ヲ付テ惡肉ヲ去
 正肉シセトメ得テ治ヘシニルクウヨ
 ワヒリニアトニテ燒酒小茶碗ワ
 程入浸シ其燒酒ヲ付ヘシ甚シ
 ミ上皮ハクル也其アトニ丹ハ油ヲ塗
 ヘシ惡肉ヲ去也其後ニヤハルニ付ヘシ

○肉茶

ラアテキス千イナ 六拾月

セイビボウハ 廿女

カワヘシヘ子シス 六拾月

フイルサンホウシ 六拾月

右水三升入ニ升ニ煎不断湯茶ノ
 代ニ用煎時湯ゲ不出ワウニロシ

塗塞煎メ良

△骨槽風 廿四

一證治ニ此症初発耳ノ前脇ホウヒラヒ平頸

ニ掛テ筋骨痛久時ハ漸々セン腫寒

熱如癰ノシテロクイヌクニテ難解

不食シ初ハ腫タル所イカニ破
シテ後ニ口開難愈口中ニ七腫
入硬シテ破イヘガタシ能不治ハ
不食シテ死也 阿蘭陀白此
症能見分テ治スヘシ切テ治
スル夏モ有 其儘スル事モ有 乞
エシラフリストタニラノスユメリクウ
リヨシ木綿ニ伸テ付ヘシニ三日
後カウヤクシハギ取迹シ押テ見
ルニ痛強所有 其時右ノ膏月茶
ニ水銀シテ押交付ヘシ口開キ所ハ

女温^{アケカニ}テ其余ハ不温也 其温成所ニ
針ヲ刺ロシ開テ膿ヲ出ヘシ其後
ハ如毎治方同前也 右ノ膏月茶ニ
水銀シテ不入前ニイヘシ^{コト} 有^ト不減
シテ痛強膿兼タル時水銀ヲ加
ヘシ内茶ハ右ノ大麻風ノ茶ヲ用テ良

△鵝掌風^{カニ} 此又

一證治ニ曰此症ハ手足ノ裏ニ出ル石榴
瘡ノ事也 阿蘭陀白此症ハ右
ノ大麻風ノ療治ニ同シ惡肉ヲ去治
スヘシ

△凍風 五六

一證治ニ曰此症ハ雪切事也(瀉)テ難

治阿蘭陀曰初発雪霜所

中赤腫甚痛後ニ潰爛ニテ

膿ト成也必虚症ノ人ニ有リヨ

テレメンテイナツ塗付木綿ニテ

卷ヘシ潰爛シタルニハシリヨテ

メンテイナツ木綿ノホツリニ浸破

タル口ハメ其上ニテヤルニシ傳ヨ若

指サキ水腫ニ腫赤成熟スル時指

サキヨリ血ヲ取其后テレメンテイナ

ノ油ヲ塗付其後燒酒ニイケヒシ

ヤミンテイキステイフシハシリヨ

右四色ヲ合木綿ニ付テ右針ノ

迹ニ傳其上ニテヤルニ傳テ卷置

也又曰此症ハ井シクエシタテイヤシ

傳テ治スヘシ

△鶴膝風 九七

一證治ニ曰此症足ノ股腿瘦膝許

大ニ腫痛也難治症也

阿蘭陀曰常ニ肉食スヘシ(雞)

鳩(類)吉也(諸)麻雀

忌シ カモメリ イリウト 丹白

アブセシテ 白角豆花 葡萄ブドウ子

各ニ撮 其葡萄ヲシホリケシ焼酒ニ入ルヲ云 四合

右水外程入五升程ニ煎シテ

アラントヒイニヨ四合シ入ル熱内ニ

楠入膝シムシ温テシメリシ拭取テ

シリヨカモメリ シリヨイヒリヨニ

右二色寺分ニテ能ク研付其上

ニムスラキニラスシ打ヘシ其ニテモ

無驗時ハシリヨフルヘイ子井リ至

タテアルテイヤ 右初ノ二色ノ油

モ入テ塗付右ノ如ムスラキニラスシ打ヘ

シ右ニ茶ハ一日ニ一度宛毎日ムスシ

此外疵腫物故ニ牛足ニ血不廻

瘦ホソリタル処ハ如此シテ良若筋

切タルハ無治 又日メラヘシリムシ

蘊香油 各一分 糠屎 五重

肉豆蔻 一分五重 右抹メ三分一度

ニ用残ハ大ニズテ鼻ニカセテ吉

○又付オホソカ

小麥小麦ノ内味 牛乳味 各見令 卵黃 四分

コロウクスコウキシリムシタリスニ分 呂宋油 二分

右井ノクマシタニメ木綿ニ伸ニ曝ニ
付ル是ハ湯症ニ付ヨ冷ヨリ焦ハ不
用濕ヨリ生ルニハケシノ油ノ月寒
ヨリ生ハ黒クノ油ヲ用

△人面瘡丸

一證治ニ曰此症ハ膝ノ頭ニ人ノ面ノ如
目鼻口ノ形有瘡出来也

阿蘭陀由此症ニハマシラフストテ
ヤキロシムクスシ付テラウニセウニタ
ル時コソ開ウニケナキ時ニテヤハ
ルニシ付テ愈スヘシ

眼胞菌丸九

一證治ニ曰此症ハ目蓋ニ出来ニテ腫
皮ムキタル如シテハ赤成テ難愈物
也俗ニ目ナト云是也

阿蘭陀白此症ハ卵ノ白味明
凡ノ抹シテ入攪文木綿シ三四重
ニ重テ此葉ニ浸メ夜サニ目蓋
ニ蓋セ臥ヘシ

△自禿瘡此

一證治ニ曰此症ハ見ノ頭ニ出来ル白
雲ト云物也
阿蘭陀ノ鼠症

六、丹ツクニシマアホスーロウルクニ傳テ
吉又曰丹ツクニシマイケシヤコシ付テ
モ良。又曰黒砂糖ニ文 鷄ノ子ニ文

△疱瘡 卅一

右胡ニ他ニ付ルニ

一證治ニ白此症ハ痘疹ノ事也

阿蘭陀白疱瘡由兼久時ハ羊ノ

糞汁シ合程シホリ取右ウククスシ

リエニターリ七八分 ベイダラバザルカサカサ

右ニ危合乳汁ニテ合程ニ合用へ

ニ疱瘡出安シ乳味ハ人ノニテモ

牛、羊、野牛ヤキウノニテモ不苦

疱瘡患キニハ乳汁ニヨウクスツリ

エニターリシ粉ニメサ入攪文瘡付

ニ吉其上ニ羊内油腸ノアミノ

ヤウ成シ取テ付へニ痒ガリニモ右

ノ付茶良

△麻疹 卅二

一證ニ白疹ノ曼也俗ハシカト云也

阿蘭陀白是ニモ右ノ痘内茶服用

テ付茶スル曼勿レト

△黒瘰癧 卅三

一證治目紫白瘰癧乃一体ニ權紫

因血滯白因氣滯總錄熱體風
濕所侵凝滯毛孔氣血不行所
致此皆從外來矣

阿蘭陀曰此症下ニテ後付茶ニ

干苔 大黃 野菊 各五分

紫蘇 三分 小茴香 大茴香 各五分

右五色抹メ茶碗ニ水シテ入粉茶シ

入攪交一名メ煎シ查去テ早服

二度ニ用其後尺澤ヨリ血ヲ取

也付茶ハ 醋一升 酒一升 各五分 金呂ス

丹 各五分 明凡 五分 生膠 一分

右粉茶五色シ醋ノ中ニ入二三目置

平成鉢ニ入握メ皮ノ切ラ▽如此

切テ右ノ鉢ノ廣方ヲ入下ニ文鉢ヲ

置上ノ鉢ノ水ヲ吸取下ノ鉢ニ流入

其汁シ温一日ニ五六度モ洗テ良

大黃 三分 巴豆 一分 皮由去

右持メ癩風田虫ヲ研ムキテ付テ

ニハラク有テ洗落ヘシ一日ニニテ夜付

△瘰癧 此四

一阿蘭陀白右癩風ノ洗茶ニテ

洗テ後 水銀 五分 豚内油 此五分

硫黄四女 塩硝四女 黒ツノ 油三女
右能研合并シクハシメノ如シテ付合
付茶シニバ豚ノ油ツ塗付ヨ

△便毒 此五

一阿蘭陀白初発ニ腫上タル時虚寒實
共ニ下シテ用ニ下スヘシ其ニテモ平
愈ナキ時ハテヤキロシ付ルウニセテ
ロツ開ヘシナイ子ヤニハシリコシ若愈
兼バロツ廣切アテテアホトワ
ルニハシリコシニキステイフンマイ
子ヤニシテ指入毎日膿ヲ取ヘシ其
ニテモ愈兼ハラフメントニテ洗テ
右ノ如付ヘシ

メラス
アルワイ 各四女
アルヨシメノストニ
一文半

右ブラシドビイニヨ ワアト口守分ニ
ニテ右ノ葉ヲ入煎ニテ洗ヘシ
△下疳瘡 此六

一阿蘭陀白瘡氣ナキハ
井シク並ニタルフニカニラウトニシ付テ
能包置之 又唐土 金口カス

トシイヤ 右ニ也粉ニメシハリ口

サロロニニテ煉合カキテラヌ加テ付
ル若水腫ニ腫タラハ無痛ハラセ
メニテ割焼酒ニイケヒニヤミク
洗テハシリコトニキステイフ
シホ合ニ合綿ヲ浸シ腫タル所ニ付
膿ケ強クハアホストロウルニテキス
イフニ ハレヒスニ右三色合付ヨ
愈ヨラハ金ノガ查ラハシリコニ
合テ付ヨ蓋膏茶ニヤハルニ昔
下茶ニシリウニモ甚ヨキヲ傳
初灸粟粒程出タル時ハ痒痛ニ

潰爛其時ハ 五倍子 輕粉 各

石榴皮カ 右柿ノ瘡ニ振掛テ

ホワリラエニシキテ テヤハルニ綿

ニ伸テ付袋ニ入緒ソウケテ下

ニシリ付テ置ヘシニ一度乾付換

ルナリ其時 恐冬ノ煎汁ニテ

洗成程水氣ヲ拭前ノ如茶ヲ

付ル腐甚有ハ洗茶ニテ洗

アホストロウルニハシリコニ等分ニ合付

テ蓋ニカラサテイヤ良其時内

茶不用内茶ヲ用ハウルヲ

悪成也

△洗茶ノ方

乳香

没薬各

野菊花

這乳草

各一撮

塩硝十

天蓋

五文

燒酒

小茶碗

水二斗入一斗三煎能加減ニ温テ

洗也甚クサリ強ハ丹凡ラテ煎

洗ヘシ其ニテ七腐不止ハ腐タル

処ニ燒金シシカト當射引ノ蜜

漬ノ汁トイバラノ花、蜜漬ノ

汁トニ色合醋ク加伏竜肝ク加

温テ洗也茶ノ不付ニテハホリ計ラ

内ニ入蓋ハムスラギニブス良也此ニ

三日茶シ付ハ腐去正肉見ル其時

テキステイブシメイチヤニメ上ニハ五

ハルニ付ル愈肉十分ニ上リタル時石

ハルニ計付テ皮シ愈ス○内茶

山飯来

四月

肉桂ニ文

白砂糖

小茶碗

右水二升入一升二煎三月用

右是ハ甚ニ腐多シテ痛ニ用痛

止也皮カフリニハ右ノ煎汁ニハ三

ッ入テ能加減ニメ水実ニテ内三

シホリ出メ洗也洗菜シメイ子ヤニ
 塗指込置木綿ニ分ラキニテ
 伸行巻サキソ四ツニ切サキ置
 小便ノ時クリテ小便スル也
 右痛去腫モ引時テヤステイ
 ニ明ルソテ加テ温水実ニ入右ノ
 如内ニ入メイ子ヤ蓋膏月菜右同前
 右ノ洗茶ニシハリヨロサアロシ加テ
 猶可也メイ子ヤハ浅指合
 △下痢洗茶方

アルワイ シルハ又シ
 好卷 乾乾 入ス 各ニ支
 湯煎

水天目ニ盃入ニ盃煎直シ去白蜜
 女加テ洗テ付茶方

石雷皮 廿支 加シテ心 五分
 三ニイヨ 五分 炙臍 五分 見合

ハラヤ 五分 椰子油 加減
 右練合付ヨ

○亦方 卵壳 五分 壳 五分 枯 五分 女
 右抹メ捻掛テモ吉

一 氣腫 廿七
 一 商蘭陀白頸 廻塊々トシテ

硬リ有押テ見ニ底痛有筋

ヒキワルヤウニ有テ腫次草ノ高
成痛時先下シ用唯黄ニ支

黒砂糖ニテ丸ト一度ニ月生魚

青物ノ息〇散シ茶ノ方

ツハリヨカセメリ
野ククノ他

ツハリヨリヨウロ
白皮ノ他

大南者他

ツハリヨホウウリヨ
クワノ他

右各草合温テ六七月至付ル目ニ

度此モ之ヲ温テ卷也若是ニテセ

不散時ハテヤキニムスラキニテス

草令ニ合木綿ニ伸テ打ヘシ是ニ

テ散物ハ散膿物ハ膿也又ル時ハ

ハシリヨイキヤニキステイブシ

ハシリヨシ蓋ニハテヤキニカムスラ

キニラスカサテ吉

△馬刀瘡 共八

一證治ニ日頭ノ廻ニ出来テ胸ニガケ

テホソ長ク出来ル腫物也

阿蘭陀ノ白下ヘサガル甚多シ其

時ハ腫ノ下方ヲ針ニテ剪開

イキヨシタイナヒシヤコンツ焼酒ニ

テ初メ温メ腫物ノ口ニ平メイキ

ニメ付其上ニ散膏月茶付テ若

△風毒腫 此九

阿蘭陀白風毒腫初発ニ頭痛

難堪時先下シシ用ハ痛止

メシワカ^{代シワカ}カ^{代野菊}ラ^{左方}ク

右ニ色粉ニメ湯ニテ食前ニ用ル

用テ後不冷様ニ身ヲ持テ不

膿前ハハスラキニラスシ付上ラ本

綿ニテ卷也若痛不止時ハ

野菊花 這孤草 次花

山燈心^代 麻燒草 角豆花

右ニ水ニ年入醋一升五合燒酒一升

五合入煎詰ニ木綿ニ浸朝メニ度宛

温テ二三篇當ル是ニテモ不散時ハ

大葵葉 麻仁 胡荽也

野菊花 ^{メリロウト}次花

山燈心 ^{名一撮} 大葵根^文

右水一升程入能煎如粘ニ煮テ

井^シ井^シ井^シメ^テアル^テイヤ^キ名^ニメ^ホワ

ホウリヨシ右ニ色シ右ノ葉トワ合

木綿ニ伸テ傳^白其上^シ水ト醋

ト合テ温テ右ノ付^茶糸^上置^本

綿ニテ卷也是ニテ膿カ散カシ

見ルニ膿タル時ハ針ノ処ヲ見定テ口
ヲ開テテキステイフニハシリコニ
合ヤキヤニ塗テ指入ル蓋ニシラギニ
ナス良是ニテ平愈スル也風腫腫
ヨリ十日程シテ色付也風濕ハ其儘
亦見ル先根ブトノ如色付ハ早膿
也ハシリコニ塗付ハスラギニナス
蓋ニスル也膿タル時針シテ先
針ノ痛ヲ不覺様ニ針シテ先
口ニ成ト思所ニ口ヲフトワリヨニ
ニ時程付置テ後ハギ取針シテ

ハ痛不覺針月廣ク成シタキ
時ハハシジヒタル針月付ヨ

△瘰癧 四十

一證治ニ曰此症ハ五瘰六瘤ト云テ十
一腫有五瘰ハ石瘰内瘰筋瘰
血瘰氣瘰是也六瘤ハ骨瘤脂
瘤膿瘤血瘤石瘤肉瘤是也
治方ニ曰瘰ハ不可決破ル時膿血
崩潰シテ不愈瘰ハ唯脂瘤一
腫破テ脂粉ヲ去ルヘシ余ノ五腫不
可決破瘰癧之症喜怒哀節

憂思過度シテ氣滯リ血凝ル
故ニ此患ヲ致ス瘰癧ハ頭項ノ間生
ス留氣ノ凝結ニ隨テ皮肉ノ
中ニ忽然トソ腫起リ狀梅李子ノ
如シク時ハニスク長スス

阿蘭由瘰癧ニニ腫有サシテハ
療治難成浮瘰ニ色有根シ
廣ク座シ取高腫タル有テ本末
共ニ同シ大十有モ有浮瘰本末同
様成瘰ヲ搜見ハグリタトカタリ
有此瘰ノ上皮ヲ指ニテハニ上首

内ノカタニリニカニワス瘰ノ上皮計
ヲ針ニテ切破リ指ニテ上皮ヲ
ニミエテ指ニカニ程ノ皮ツ下ノ塊
リニカニイナキヤウニ上皮計ヲ破
見ハ内ニ卵ノ様ニ塊リ有^{カク}其塊
ヲ引上ハサニ上ハ木肉ト塊ト
ヘタタニ成也其ヘタタノ所ヨリ塊
ノ命ヲ切取也其迹ノ血ヲ能止
其後テ中ステイフンツ付ル右
ノ切破タル上皮ヲ合セ上ハハ
此ナリニ木綿ヲ切シレヨシヨシ

上皮ノ切目ニ横サニ打也瘻ヲ切ル
時ハ金ニ槍療治也根廣瘻モ右
ノ如止皮ヲ破リ本肉ト瘻トノ
境ヲ見究搜ノ大キ成ニテ能
上ヨリ搜レハ知ル也肉ト塊リトノ
境シテ切上テオキノ口キ針ノ
ユカミタルニ糸ヲ付下シ搜テ又
字ニ通シ又カタ々ヨリモ通シ十
文字ニ通ス也其糸ヲ引上レ塊
ト本肉ト能知也其時平針ニ
テ塊リノ分ヲ切取其後ハ如右

ニ療治スル也如右ニ切取テモ去肉
有ハレシヒタルトハシリコシテ合テ
付ル也若松成膏月茶難傳所
ナラハ車前水 次花蜜漬汁
右各等分水実ニテ突入テ舌木
綿ノホリ計モ付ル 傳曰瘻
ノ瘻ノ頭シ先計ニテ切破リ或灸シ
スルカシテ信在文也且ト研合如粘
ニメ付其上ニニテヤハルニシテ木綿ニ
伸テ付ルニニ度付ハ口開膿出ル
也水実ニテ内ヲ洗膿シ悉抜去其

後愈菜二

鹿角霜 土竜霜

牛皮霜 各等分 松脂 女

右ノ油ニテ煉付テ吉 又百ニ

度宛湯ニ明凡之テ洗テ吉

△鼻茸 四十一

一證治ニ曰鼻者是肺之外候也

阿蘭陀白此症ハ先下シテ用

シ○下シテ方

テバルバ 十女
アルワイ 十女

ニステキス 女
サワラシ 一食

シカモ子イヤニ女

右五也ツキ合後ニテリヤカ女入●

是程ニ九ニ度ニ四粒九十カラ用

但四日ニ度宛用テ吉。次茶

ニステキス 五女
醋ニ浸ニ女焼
オコシニ 一食

アルヨニス 十女
フルハシイニ 一食

ラヒスカラニ 三十リス 一食

右林メ鼻ニ吹入ルニ目ニニ度宛若

人ナラハ膏月七膏宛ニ灸スヘニ自

鼻外へ長出タル時ハ糸ニテク

リ毎日其糸ヲシシメテ右ノ茶ニ吹

○又方

玉乳香一 栝凡文一 トウ子中文一

カサ一文一 麻角霜一文一

右律メ如右吹入也

△耳病 四十二

一證治ニ曰耳者是是腎之外候也

阿蘭陀白耳病ハ小兒ニ多有之

病ニ生産ノ時古血ヲ吞或ハ風

寒ニ中リ発熱シテ耳ノ内外ニ

瘡シ生ス治方ハ。パンシ温成内ニ

上皮ヲ去内身ヲ耳ニ押當木綿

ニテ卷也是ハ耳ノ真痛時也清

膿出ハアメントノ油ヲリヨサレ

右合乳汁ヲ加テ交合木綿綿ニ

浸シ押込包卷置也瘡毒氣ニ

テ耳不開時ハ葱白熟灰内ニ

埋シ温成シ耳ニ當也耳ニ水分或

風杯合テ痛ハアメントノ油ニ

カセメリノ油加テ耳ニ指入テ若シ

耳ノ内ニ熱氣有ニハアメントノ油

ニロウサノ油加テ指入テ吉

△丹毒 四十三

一阿蘭陀白肝臟不足スル故ニ血不足ニテ此患ニ成 治方

山歸來粉ニメ寢サシニニニ湯ニテ用其ニテモ外へ不出時又其翌日早腹ニ下シテ用方ハ

大黃 二支 ハニキクハニ ホウリセイ十 五
茴香 各 一 文 クハントロ 各

右四味細搗メ一夜水ニ浸翌日煎其汁ヲ天月一盃宛温テ寢サシ用其翌日尺澤ヨリ血ヲ取其翌日ヨリ煎茶ニ用方ハ

山椒末 十文 大黃 四文
茴香 一 文 イシト 一 文

右挿メ水五升入ニ升ニ煎用

又曰此症洗茶ニシテ吉方ハ

塩硝硫黄ニ合ヌルヲ云 カルルルニイルル アスインル

右合水シ入テ煎温テ時々洗テ良

△ 鷹瘡 四十四

一傳ニ曰イヒリコシノ油ニカンフラガ加テ煉合塗付テ吉又曰五ケフヤコシ塗付テヤハルテ付テ吉或ハ尺澤ヨリ血ヲ取テイヒリコシノ

油ノ付テ良

△**膿瘡** 四十五ハキ瘡イ

一右是ニモ下茶ニテチヤコニシテ塗付
テ上茶ニテヤル付テ吉後ニ
テヤルニ計ラ付ル或

乳香 没薬 甘草 伏竜肝 茯苓

各等分 枯凡ク

右抹メ合搥掛テ其上ニニヤル
付テ卷置也翌日膏月茶ス
ギテ見ハ膏月茶ニ膿付テ迹亦
其時ソリヨヒヨウラスニ 醋ヤ加

温塗付其上ニニヤルニシ付ル其時

桃花蜜漬ニ大黃 芦薈雄黄

加テ湯ニテ用下シテ吉 其後膏

茶取テ見ハ燥テ正肉アラハル其時

カンフラトニシテ塗付其上ニニヤル

ホウリクスシ付テ吉ニヤルニモ良

△**血止** 四十六

一阿蘭陀白大疵ハ燒酒ヲ温ニ洗

ハ血止ハ小疵ハ血止茶ヲ付ヘホウ

ヘイシラ粉ニメ付ヨ血止石ヲ首ニ

掛サセテ良或ハヘイシハイハル

首ニ押テ吉粉ニメ付テモ良或
ホワウシ香色ニ炒テ付テ能止
也或ハセ豆シ紙ニ包打ニ朱シ
ヒロゲ打付テ置切テ付テ能止
或明凡丹凡煎紙シ浸干テ切付ル
能止ル物也此外他々有也

△金瘡 四十七

一阿蘭陀白牛負血走ハ先血止
ヘシホウスイシ粉ニメ付ヘシ此血止
付テ疵シ縫ヘシ切口二尺有ハ三
所五寸有ハ二所程見合縫

縫目血キハ内ニ膿コモリ出ガメ
縫をキハ疵ノロヨリ難シ肉ニ不掛
様ニ皮シ掛テ縫ヘシ縫テヨリホ
ワリ木綿ニテキステイフシ付テ
疵ニ付其上ニカラサテイヤシ打合
七八月過テ糸ヲ取ヘシ冬ハ八九月
十月程過テ糸ヲ取ヘシ毎日二度
穴上下ノ糸付換ヘシ膿去愈肉
上ニヤハルニ付ヨ縫糸ハ紅
糸針ハ切針吉若疵深ハツリヨ
イヒリコンシテ過テ疵内ニ入テ

其上ニ右ノ膏月共シ付ヨ 疵若骨
ニ掛ハロクハイ没茶 白欬右三
色等分ニ粉ニ入骨ニ振掛其
上ニ右ノ膏月茶付ヨ久キ疵ニテ腐
損タルニハイシクエシタイケフチヤコシ
付テ腐ヲ去疵ノ内キレイニ取タ
ル時 テキステイフシラボワリニ付カ
ラリテイヤソ上ニ付ル也 疵脇系
身有ハカンフラトシ付ヨ赤ニ去
愈肉上リ膿ケナキ時ハテヤルヲ
付ヨ 腹ノ疵ニテ腸出タルハ野

ノ乳味シ能加減ニ温テ腸ニ付シ綿
自入也 牛ニテ強不可入牛ノ乳
味モ吉無是時ハ湯シ能加減ニ
入腸ノ温ヘシ腸入テ後縫也 次ニ
ハホリ木綿シ疵ノ口ニシカト置其
上ニテヘシスイフシラ木綿ニ伸テ
付ヘシ日ニニ度宛付換ルボワリ六
茶ソ不可付テ若疵ノ口小クシテ
腸出タルハ腸入兼ル也其時ハ疵
口ノ長クシテサニニ寸モ見合
切アケテ腸シ入ル也 切様ニ野ノ

上方内ニ搜シ入腸ニ疵ノ不付様
ニ切ヒ腸ニハ右ニ云牛ノ乳味カ野
牛ノ乳味カ何モ右同前

縫様ハ後切タル疵ノ下角本疵

ト四ノ角ノ所アタラシキ疵ノ方

シ縫ヘシ其後ボワリ木綿シ付テ

其上ニテヘシイフシ付ル木綿

シ廣シテ立横ノ疵ワ惣ニ掛

テ打ヘシ金瘡療治ハ風ノ不

所ニテスヘシ懐妊深忌也其男モ

忌也腸サニテモ疵付タルハ不



後疵
本疵

右ホウリ木綿シ置

ニ疵ヨリ外ニ木綿アテラサルヤウ

ニ置ヘシウユキニシラガルヤウニ

ヘシ大疵ノ時モ同前上膏月茶立

横ノ疵シ膏月茶一枚ニテタモウヤウ

ニスヘシ膏月茶シニウニメ付公疵

クツロキテ悪也鑢疵深入タル時ハ

先血止シ付テ血ヲ止テホクリシ入

深ナジ見テマイ子ヤウ扱

キキステイウシツ塗指入其上ニ

カラサテイヤウ付ヘシマイ子ヤウ

二度宛指カヘテ良愈肉上リテ、
後テヤハルニ付テ愈也皮ツ切
ヘワリテ肉ノキタルハテキステイニ
ソ付テ愈肉上リウミケナキ時ニ
テヤハルテ付テ若クハ足切落シタ
ニ先血ヲ止テテキステイフコソ
ホリニ薄付テ切口ニ付ヘシ六七日過
テ切口愈肉上リ可愈位ニ見ル也其
時枯ル粉ニメ切口ニ振掛其上ニ
テヤホシホリコソ木綿ニ伸テチ
ヘシ能愈也 切落タル縫ト云

度ハ無是事也ハ〇是切落シカケテ
四分ニ残タルハ縫ヘシ切タルサキ
筋目骨ノセモ不違様ニ見計ヒ切
ロソ能合四五所モ縫ヘシラリナイ
ヒリコソ温テ内ニ入ホワリニテキ
ステイフコソ付テ疔ノ口ニ付其上ニ
カラサテイヤテヘシイフコソ伸テ
キ其上ニ木綿ニテニ重ニ重ニ重ニ重
其上ニ板ソアテ巻テセハカラガ
様ニスヘシ右油ハ一日ニ度テキステ
イブニニ度宛テヘシイフコソ

程ニカヘテ吉何ノ疵腫物ニテモ正茶
小毎日摸上茶ハ二日月三日目ニカ
テモ不_レ答併見計次也

○矢ノ根ト_レリタカカ竹木折込タカ
何モ當座ノ疵ナラハ毛引ニテハサ
ニ取ヘ_レ五六月過テ疵腫テ口塞

タラハスホニス_レ疵ノ深サニタテ切糸
ニ_レ卷疵ノ内ニ指入三四時程置
ヘ_レスホニス次キ_レニテクル_レニシタカ
ワテ_レ疵ノ内廣成也其時スホニス
シ挽出し毛挽ニ_レ内ニ込_レタカ物

挽出し其迹ニ_レテキステイフニテ
テヤコシハシリコシ右三色等分ニ合
丹丸ノ油ヲ加テ交合メ_レイテヤシ指テ
塗付疵ニ指入其上ニ_レテ_レニシイフ
打込シメ_レイテヤハ一日ニ二度宛指替

蓋膏膏茶ハ二日月ニカヘテ吉竹木ノ
ナキ女内ニノコリタルハ右ノ茶ニ付テ
出物也。鉄炮疵是モ大槩右ノ矢

疵実疵同前若玉肉ノ内ニ留全振
ヒテハカニ出シ取_レシ若玉膏ニ留ハ
子テヌキニテ取出スヘ_レシ若目数_レテ

疵ノ内腫タラハ右ニ云ヌホニスシ指ノ疵
内廣ナシテ玉ヲ取ヘシ玉出後治方
同前ヌホニスト云ハ海綿也日本ニテ
モ八丈嶋海邊ニ有是ト也

或阿蘭陀ノ白金瘡痛ヲ止テ
和ル菜ハ先血ヲ止テ後テキステ

イサシクホワリニ浸テ疵ノ口ニ付其上ニ
テヘシヒイフコシ木綿ニ伸テ打ヘシ
或ハシヨイヒリコニ花水合ホワリ
ニ浸テ下葉ニ付其上ニテヤルコシ
打テ吉ト 疵ノ血止煎ル時ハ

ホウヘイシシ疵ノ口ニ付テ水ト醋ト合
木綿シニ重ニ重ニ浸メ切口ニ押當
其上ラ卷テ置也又ホワリニ右ノ醋水
シ浸疵ニ押アテ其上ニ松脂ト蠟

ト和ニ煉合木綿ニ伸テ右ノ上ニ付
テモ止ル也 又血碯 荷土 太麦粉

タイラシケラタ^各 乳香 没薬^各
右粉ニメ疵ノ口ニ付其二印ノ自身
水ヲホワリニ浸メ押當テ卷置也

筋切タル時ハ テキステイフコシ^各
テメシテイナノ油^一文 イヒリコ^油三^文

右ニ色合湯テホワリニ浸シ切ロニ押込其
 其ニ丑ニララストテヤルニシテ吉此
 膏茶付タル外ニ分ニ花ノ油ヲ塗テ
 良 傳ニ白癩ノ大小浅深ニ不依先
 燒酒ヲ温テ木綿ヲ湯ノ子ニテハワキ
 一リヨリソコクタテ洗ニ洗タリタル
 血ヲ或ハ毛或土何ニテモ能除テ血ヲ
 シホリ出シ能洗テ切針ニ麻ノ糸ヲ
 通シ其糸ニ蠟ヲ引先癩ノ真中ヲ
 糸ニ重掛テ一針縫其次ニ兩脇ヲ五
 六分程宛間ヲ置テ癩ノ口不針様
 ニ念ヲ入縫ヘシケタ敷ハ癩ノ長短ニヨリ
 多寡有ヘシ但呂ノ癩腹ノ癩ハ癩ノ
 アトサキニマイ子ヤヲ指テハワミシ取
 故ニ縫殘シ置ヘシ能縫テ後ニアトヲ
 少シトキニテシホレハ薄血出ル也ト
 カク癩ニ血殘ヌシ忌也椰子油ヲ
 能加減ニ温癩ノ脇ヲソコク温洗其次
 ニ縫タル癩ノ上ニ右ノ油ニテ洗テ付
 茶ニハ印白身計ヲ取テ四ニ入能々
 是ハ泡立也上ノ泡ヲ去テ下ニ沉タ水
 ニ椰子ノ油ヲ等分ニ合木綿ノ糸

リシ五十筋程疵ノ長ニ拵右ノ印ニ浸
燒口縫タル上ニ付木綿シ疵ヨリ大ニ
切テ右ノ印ニ浸ニ二篇モ付其上ニ醋
ト水シ等分ニ合木綿ニ重程ニ浸
蓋其上ニ綿シ蓋其上ノ木綿ニテ
四五篇モ巻右ノ如甚ハ一日ニ二度
於日ハ二度宛付カエテ吉但醋シ付
夏ハ初日一日也六七日モ過テ腫モヘリ
痛モナク疵ノ口愈合タルヤウニ見ル時
糸ヲ切取也糸ヲ取ニ八月敷不定疵
ノ様子次第ニ取也糸ヲ取ニ二三月前

ヨリハシリモシ能加減ニ温ホツリニ浸
蓋其上ノ仕掛右同前糸ヲ取テ
後ハ椰子油ニテシテイナシ等
分ニ合温玉子ノ黄計シ取リテ能
攪交右ノ油トワニ交合木綿ノ糸
ワリニ浸疵ノ口ニ付其上ニ五シフラ茶
カラサテイヤラ木綿ニ伸テ付巻
置也一日ニ二度宛付カハ愈肉八九分
ニ上タル時ニ丹シラストテヤルニ付
皮ヲ愈スヘニ疵ノ上ニ木綿ノ綿ヲカ
アセル夏ハ糸ヲ不取内ノ事ニ品シカキ

腹シ切タル時モ縫様右同前但木綿ニテ巻様出タル腸疵ノ見様白

ノキ、ヤウカスカイノカケヤウロ傳有也
不縫疵モ先焼酒シ洗又右同前

付茶ハシリヨロアロシシリヨイヒリ
コシヨリヨテレメシテイト名等分

小油又生臘タ何モワ合能加減ニ
温メ冷メ印ノ黄味ニシテ取交合テ

木綿ノホウリニ浸疵ノ口ニ余ル程入其
上ニテヤルニテ打也大疵ナラハ三四日

スギテ後椰子ノ油ニ生臘タ加温テ
疵シ洗其後右ノ油茶ヲ付テ疵愈

肉十分ニ成ク如右茶シ付テ其ハ
後テヤルニシ付テ皮シ愈シ疵新

ニヨリ巻様大事有若疵ウニ深
クナリ有時ハ腫物ノ療治ニテ吉

実疵矢疵鉄炮疵ノ時モ先焼酒
シ能加減ニ温洗水実ニモ入内ソロメ

ト洗水実ニテ吸取其後油茶シメ
イ子ヤニ塗指入其上ニ立テラストニ

ハシイフコシ付ヒシ巻丈右同前抽
シ入テ疵ノ深サヲ搜覺テ疵深サ

三分一程ニメイチヤシ梅メイチヤノ類ニ
發ラ付テ胸ニ結付其上ニカウヤクヲ
付テ卷也右ノカイチヤ茶コカ

ツリヨロサアロシ

ツリヨイヒリヨ

ツリヨテシムテイナシツリヨハルサモク

右合湯テメイチヤシ浸指入ムハルモ
無是ハ人油ク出腦ク加テ右ノ如シ

○鉄炮疵ハ矢裏破大キニ成故ニ裏シ
表^{ラモテ}シモテシウラニスル有^ハ傳

和醫ノ白金瘡者必湯ス水シ吞セ
カラス只乾食シ用ヨ若ウスキ粥シ

食スレハ必血沸テ出必死也腸出テ

死ントスルハ磁石滑石各^五細末

メ米飯ニテ一日ニニ度宛用ル箭ハ

ノ頭骨ノ内ニ有テ不出者シ治

ル六九雄鼠一枚精肉シトリ薄批

キ末メ服スル毎ニ錢熱酒ニ

下ス若箭瘡痒コトソオホスル

トモ不抓カクキツ志^シ支^ス時スレ箭

頭自出ツ

破血丹 治金瘡止血止痛

天花粉

白芷

姜黄 各二

赤芍 二

右味々々許患所ニ乾搗セテ或

蜜ニテ調塗

○又方 治金瘡止血

石灰 炒

雞子白ニテ和ス九三

テ彈子大ナニメ炭火ニテ燒赤大

キ抹メ瘡ノ上ニ傳

○疵膏月茶 灰丹油百 松脂 同

反腦 廿五

椰油 十

可入煎

布ニテユシ冷テ 白粉 五十目

右ノ丹ニ入煉合テ木綿ノホリ浸

ニテ疵一面ニ付ル其上ニモ木綿ニ伸

テ付其上ラ卷置右同前

○一切ノ痛ヲ止ル油ノ方

蜜柑葉 大

甘菊花 中

大茴香 中

生腦 大

右四味研碎油ニヒメ々ニ浸ニ三月モ

置クカラシ其後ユシテ査去使

○馬喰菌ノ菜

石膏 一

青塩 一

右粉ニメ五倍子丸キツクツアケ右ラ

合ソハリ黒燒ニメ粉ニメ同也

頭蓮ニテハ、^ハ後ル時毛ヲ生テ茶ノ類
死ナカラ、黒笔抹メ油ニテ調付ル

○腫物初発ニ蒸茶ノ方

大麥 三合 生腦 六文

右ニ泡シ古酒ニテ煮テ食ノ如クメ
木綿ニ包痛處ニシカクト當ル痛
シ能止ル妙方也

阿蘭陀外科金瘡書上卷終

阿蘭陀外科書卷之中目錄

才一 同テヤキロトスラゲニス 八

才二 同テヤキロ 四

才三 同テヤキロヨムケス 四

才四 同テヤウニスミ子メリクウリヨ 一

才五 同タノノスユニルウリヨ 一

才六 同メリロウト 三

才七 同シニイヨシヨシ 二

才八 同テヤルニ 三

才九 同テヘニスイフニ 四

才十 同テヤキロニキヨウナ 一

才十一 同ハラリヒ子ルホウニ

才十二 同テヤホニホウリス

才十三 同ケリニウニ

才十四 同テニニイヨ

才十五 同カラサテイヤ

才十六 同ツホテニト

才十七 同ヘウテコニ

才十八 同ヘトウニカ

才十九 同アルニニス

才二十 同アルウトテキセン

才二十一 井ンクニタハセリコニ

才二十二 同キキステイフ

才二十三 同アホストロウニ

才二十四 同エケフチヤコニ

才二十五 同テアルテイヤ

才二十六 同アルフンカンフクニ

才二十七 同アトストニ

才二十八 同エライト

才二十九 同アサニ

才三十 同ニキスダリ

才三十一 同アウカヒス

才三十二 同メケストニ

一

二

一

二

二

一

一

一

三

七

七

五

五

四

三

三

二

一

二

一

一

才此三 同又ツキルトン

才此四 同レイフシゲランス

才此五 同ホツホウリヨシ

才此六 同ウエツテカンフル

才此七 同ロウトニニイニヨ

才此八 同ステヘクシ

才此九 同ツリウシ

才四十 同ツフヤータ

才四十一 同フル子ルカンフル

才四十二 同エニカルナアテ

才四十三 同エムカリヨウフレイ

才四十四 同カンフルアルラヒ

才四十五 同ハストロ

才四十六 同カヒヨウサ

才四十七 同ウエニテニテ

才四十八 萬應無二膏

三

一

二

一

一

一

一

一

一

一

一

三

一

一

一

一

阿蘭陀膏茶法集卷之中

△中一升ヲラーストスラゲニブス

一セイモシヘ子ケシイ子 半斤

一セイモシリイ子 同

一山燈心皮 同

一ツルトロハニルハ 同

右四色粉ニ水ニ升入合五日置煎五
合ニ減タレ時布ヲ用テクニ査ラ去

野魚 脂 ツ、リヨカモメリ 四拾月

百合 脂 ツ、リヨレリヨウロシ 同

一カンスワテ 同
脂ノ油ニテモ
アヒル油ニテモ

右三油煎右ノ煎汁上ツニ合火ヲ靜

ニメ煎去水氣其後

鼠梓木脂
一アモニヤミン 拾六匁

一オカヘン 同

一ヘタリヨシ 同

一タリヨシ 同
右三色醋ニテ解シテ右トツ灸上居テ

一タルヒシテイ十 九匁

一ハツテワス 一斤

一エロウツスシリマシタリス 拾六匁

右三色ツ入煉堅ル 功能瘰癧疽瘡

癰諸無名腫ニ貼之塊ヲ和テ

散散若不散者引上膿膿腫物揉

タルツ湿シ疼痛ヲ止瘡ノ沉タル

ツ引上ケテ膿膿最上之妙膏也

○オカ一同銘 ムスラケ

一セイモンヘ子ナレキ 四十八匁

一テリテキスアルテイ 同

一セイモンリイニ 同

右三色粉ニメ熱湯ニ攪更鳥毛ヲ

不不少少家タル時布ニテテ査去

一アモニヤミン 拾六匁

一ヘタリヨシ 同

一ツホ、ナールン 同

一テレメン、テイナ 此二文

一ツ、ホ、ナールン 此四文

右五色シ、強醋シ、用煎解シ、存下ラズ

一ツ、リヨ、レリヨ、ウロシ 此四文

一ツ、リヨ、リイニ 同

一牛油 同

一ゲイル、ロス 六拾月

右四色ヲ入煉合其後

一リイ、タ、ル、キ、リ、ヨシ 此二文

一ホ、ラ、フ、ラ、ク、ス 二文

右粉ニ入煉堅ル 功能右同前

一オ、一、同、銘、ム、ス、ラ、ケ

一ラ、リ、ヨ、ス、ラ、キ、ニ、ラ、ス 六拾月

一ア、モ、ニ、ヤ、コシ 五文

一ツ、ホ、ナールン 同

一サ、カ、ヘ、シ 同

一石榴皮 同

一三、ウ、ク、ス、シ、リ、エ、シ、タ、リ 二文

一セ、イ、ラ 百四十月

一テ、レ、シ、ム、テ、イ、ナ 此二文
右煉合使 功能右同前

才一同銘 ムスラケ

一ツリヨスラキニラス

四匁

一コメモニヤコシ

四匁

一コメカルハヌシ

同

一コメホノナラヌ

同

一コメサカヘシ

同

一ゴロウチ

二匁

一セイイラ

一斤

一テシタシテイナ

十六匁

右煉合使

功能右同前

才一同銘 ムスラケ

一セモシヘ子ケレイチ

四十八匁

一ラーテキスアルテイ

同

一セイモシリイニ

同

右粉ニメ

一タリヨシ 代ニウルシ使

拾六匁

一アモニヤコシ

同

一ツホノナラヌ

同

一ツバリヨリヨウロシ

四二匁

一ツハリヨリイニ

同

一リイタキリヨシ

六八匁

一テシタシテイナ

同

一ホウラクス

二匁

一ヘツキ

九匁

一セイロシイラノウブ

百匁

一アキツクウヤワーカ

九匁

右煉合使 功能メリロウトノ能ニ同

故メリロウトナキ時代ニ使

一オ一同銘 ムスラケ

四格目

一ヨロツ油

一小麻仁粉

同

一小菱花

同

一ウイロク

十六匁

一楸脂

同

一リイタヒキリヨシ

七匁

一ホウラクス

二匁

一ヘツキ

七匁

一セイイラ

六十匁

一ヨリヨイニ

同

一ウーカハワテ

同

一チンシナイナ

同

右煉合使

一オ一同銘 ムスラケ

一セイヤシシイニ 一斤

一セイヤシシ子ケシイ子 同

一セイヤシシ子ケシイ子 同

右抹入水ヒククニ入七月置テ煎

布ニテアコシ查去

一ウイロク 拾五文

一メテハ 同

一ゴウクスシリエタリニ同

一阿膠 九文

一ツノリヨカモケリ 十五文

一ツノリヨシヨウロ 十文

一虎トカル油 卅文

白豆ゲイルウス 一斤

一ワーカーワテ 六拾文

右煉合使 功能右同前

才一同銘 ムスラケ

一セイヤシヘ子ケシイ子 五文

一ラレーテキスアルテイ 拾文

一セイヤシイニ 五文

一石榴皮 同

一大黄 同

一草ヒシハシニシニシニケトテキキノ有リ

一安息香 同

一爵金 二文

右粉ニメ

一 ヨシノ 小ルトカルノ油

半斤

一 黄燥

同

一 テレメニテイナ

拾六女

右煉合布ニテヨシ使 右何七性ハ

湯ノ膏月茶也諸腫物蓋此ヲ

使テ良

一 力ニニエシフラストテヤキロシ

一 セイモシヘ子ケレイチ 四拾女

一 セイモシリイニ 同

右ニ色抹メ水ヒタクニ入七日置

其後煎布ニテヨシ査去

一 一ハルス 廿女

一 セイラニレイラ 廿女

一 シリヨカモチ 見合

右煉様ハルスカモチ セイラ

一 可入煎シ解リイタルキリヨシラ

粉ニメ入煉合其後ニ味ノ煎汁ヲ

介ニ性ハ温ク諸腫物堅シ和ケ

膿ル陰症ノ腫物ニ良

一 力ニ同銘 テヤキロシ

一 小ルトカルノ油 二百零八女

一 コロム 百二十八女

一 小葵根 同

一小麻仁

同

右ノ三色粉ニ又右ノ赤トナル油ニ

浸七日置煎泡立止時布ニテ口

ニ查去

一金炸查

粉ニメ

百七四条

葶苈セイイラ

同

一ハルス

粉ニメ

百六拾四

右ニ色入煉合凡 功能右同前

但腫物シウニセント思時此膏

茶シ木綿ニ廣伸テ其中程ニ

ハシリヨシヲ塗テ腫物ニ付ル夜ノ

内ニ膿ニ成又初灸ニ是ツ付テ

腫ニ七八腫ハ散者也或道ツ走リ

腫腫ナトトヒキウリ痛ニ良或胸ツカ

ハ強リ堅硬成ニ付テ良

一合キヌシノ油

三斤

一金炸查

一斤半

右煉合使性ハ寒也

才ニ同銘 テヤキロシ

一合キヌシノ油

二百半斤

一金ノロカス

百二十月

鼠梓木脂

一合ニヤコシ

十文

一ツホクサクシ

同

一カクハス

同

一ナカハシ

同

一 テレミンテイ十

六分

右煉合使性ハ温也切能前方同シ

オクニエニララストテヤキロニムス

一 ライ^有テイキスカルテイヤ世ニ分

一 セイモシリイニ

同

一 シロムホウム

同

一 セイモシヘ子イナシク同

右粉ニム衣ニ包リモメリノ油旨

浸七月置テ煎シニホリ出シ査去

一 シハリヨア子テイ子 八分

一 シハリヨカモメリ

同

一 セイラノウブ

百六分

一 カフラニ

六分

一 アモニヤン

九分

一 カルハニ

日

同

一 ヲホハナア子ス日

同

一 サカヘン

日

同

一 テレミンテイ十日

八分入テ

同

右五危酒ニテ煎解ニ能加減ニ成ル

時サフラント苗蟻ヲ入煉合右ノ三

危ノ油ヲ入ル静ニ煉堅ル

功能一切ノ腫物難膿ニ付ル瘡疽瘰

癧ニ良無名毒腫ニ良腹中強クニモ

腹ニ付テ良下葉不付メ一葉付ニ甚

神効右酒ニテ煎時酒湯キタル時ハ

又酒ヲサシメテ良

才三同銘 ヨムヨムス

一 野菊他 ノノキ ヲリヨカモク ノノキ 半斤

一 白芍 ハクシャク ヲリヨアニイシ 四十月

一 白芍 ハクシャク ヲリヨウロシ 半斤

一 葱白油 半斤

一 白朮 ハクニ ケイルウス 其を煎取

一 白朮 ハクニ アルホウシ 一斤

一 ウルシ 半斤

一 モツヤク モツヤク マスヘ 水ヲ研解ス 四十月

一 金口カス 半斤

右香ニアルウシニ番ニセイラニ番ニ

油ヲ皆入ル四番ニ口カス五番ニマスヘ

入大ノ上ニテ静ニ煉堅ル也

才三同銘 ヨムヨムス

一 小麻 コウマ セイモシリイニ 一斤

一 小麻 コウマ シルト只ハニルバ 同

一 セイモシヘ子ケイ子 同

右三色粉ニテ熱湯ニ入六月置

テホルトカル油ニ行入煎水氣去

テ其油半斤入ル

一 液脂 エキ ヨムヘタリヨシ 此女

一 ヨムオカヘノシ 同

一 煎糖 ケンドウ ヨムアセニヤシ 同

一 ヨムカスハ又シ 同

右四色酒ニテ煎解シテ査去

一 テシメンテイナ 此女

一 テシメンテイナ 此女

一 テシメンテイナ 此女

一 野菊 ^白 アルウシ 同
一 ケイロウス 同

一 テヤルニ 半斤
右煉合使 功能右同前

一 中三同銘 コムニス
一 アルホウシ 三斤

一 豚内油 ^{ホウテイ子ト云} 四十月

右三色煉合布ニテヨクニ査去テ

一 ^{ゴニ} トカル油 一斤

一 蒜根 拾根

一 葱白 五合

一 白エリ根 拾五根

一 小冬根 五本

一 野菊花 拾文

一 ^黄 セイラ 一斤半

一 ^黄 合キ 成文

一 ^粉 レメンテイ十 七文

一 麻仁 粉ニメ 同

一 コロハ 同

一 肉桂 同 十文

一 ^乳 マスヘ 同 三文

一 ^乳 ウイロク 同

右煉合使

一 丹豆シララーストテヤウニス子ナリ

一 コノリヨカモナリ 七ニ文

一 シノリヨア子イテ 同

- 一 ヲリヨシリヨウロ 同
- 一 ヲリヨコロウトスイ子 廿六女
- 一 ヲリヨシヒツセイ 廿二女
- 一 アラクソニホツスイ子 百九十五女
- 一 ヘシテグニスイトリ子 九十六女
- 一 ヲリヨロウリイ子 六十四女
- 一 トウリス 廿女
- 一 アイホロウヨシ 十女
- 一 ラアニスヒヘンテス 廿七
- 一 ロシロイイマウロニタニス 五十六女
- 一 ホロウリスアニテレイカニヤ 二撮
- 一 ホロウリスセナシテ 同
- 一 ホロウリスステカアロス 同

- 一 シクキイラアテキスアイアリ廿二女
 - 一 ソクキイラアテキスインシイ 同
 - 一 テレメンテイ十 カニア子 同
 - 一 ステイラアクスリイシニイ廿四女
 - 一 レイタルキリヨシ 百九十五女
 - 一 ヒイ子ケ子ロウシ 百九十五女
 - 一 セイラアルビ 加減
- 右煉合使
- 才五五三ヲヌストタラノスニルウリヨ
- 一 ヲララーストカラサテイヤ六十五女
 - 一 ヲララーストゲレシヨシ 同
 - 一 アラカシテハイヒト 同
 - 一 サヒイ十 同

一サシギハイシダラゴウニス 一灸四分
一ツリハヌ 一灸四分

右二色ノ膏月茶ヲト吊シ水銀ヲ入
研合残ニ味ヲ粉ニメ入ル是ハ痞
滿黃腫ノ類ニ木綿ニ伸テ腫メ
ル所ヲ卷シ黃疸ノ皮ニ若水腫
脹滿類ナラハ先下シテ用テ腫氣
ヲ耗シ其後足杯ニ腫氣殘事有
也此膏月茶ニテ卷テ置也則下
シ是ニ記ス

ラフテイイスメイホアロシ一灸
ゴウテロコニバコメニロウ 五灸

若細抹メ早腹ニ一度ニ酒ニテ用

半月ノ内ニ水ヲ大ニ下メ一身ノ腫氣
ヲ減其後足ニ腫氣殘タル処ニ右
ノ膏月茶付ル右ノ下ニ服ニテハ腫
殘故ニ又ニ服月未ト四五日此月也
朔月ヨリ十五日迄ハ此下シ不用月
ト水トハ同氣ノ物成故ニ月ノ大ニ
成ニ随テ水氣ニ倍シ腫氣物成故
ニ此月以後ト四五日ノ間ニ月ニ若
キ六日ニラフテストメリロウト

一ツメテクメリロウト 四十八灸
一ホロウリスアフセニテ 三灸
一ホロウリスニキヨラー子 同

一 ホロウリスカモメリ 同

一 セイモシヘ子ナシイ子 同

一 カルア思ロウリイ子 同

一 ラアテキスナルテイ 同

一 ラアテキスミツヘイ 二女五分

一 ラアテキスイニデス 同

一 ラアテキスミツセイナアテイ 同

一 カニヤシ又子ヘイ 同

一 セイモシアミヨウス 同

一 セイモシアラビイ 同

一 カルタモシ 同

一 コメアモシヤコシ 十女

一 メヘタレイ 五女

一 ハテラアキスカラメイタ 同

一 テシメシテイ十 十五女

一 ヒイコス 九

一 シシイ子 二女

一 セイハル子イ十 同

一 セイイラ 六十四女

一 シリヨスヒラセイ 十六女

一 シリヨシギラア子 加減

右煉合使

東六同銘

一 ホロウリスカモメリ 此母ハ女粉 由十八女

一 ホロウリスカモメリ 後ニ入ル 三女二分

一 ホロウリスヘ子ナシ 同

右粉ニメ水ヒタケニ入煎水減ル時
研碎テ

一 アモニヤコシ 十女

一 タリヨシ 五女

一 ヒイクスセイカ 十二

右アモニヤコシ タリヨシ 酒ニ浸ホ

トヒタル時ヒイクス粉ニメ入静火

ニテ煎布ニテコシ其汁ニ

一 セイラニセイラ 四十八女

一 テシメンテイナ 八女

一 ホコペツテ 十六女

一 シハリヨシキヨラ子 一女四分

一 タリヨシヒワセイ 同

右五色ヲ合シ煉合初ノ研碎タ
ルニ味入煉合其後

一 ホロワリスリイニ 三女二分

一 ラアデキスナルテイ 同

一 アツセンテイヨシ 同

一 カルタセシ 二女二分

一 イリヤウス 同

一 シイペロス 同

一 テヌカ子イラ 同

一 アメイシ 同

一 ギヨラ子 三女

一 ステラクスカラメイタ 五女

一 ハルス 十六女

一サフラニ

八分

一セイモシナルテイ

二分五分

十クテシクウアフル

八分

右粉ニメ入煉堅ル此膏茶ハ多
 リ生腫物ニ吉ト氣腫瘰癧
 乳硬乳岩其外塊有ニ良瘰
 瘤近ハ此膏茶付ルハ下地ニ
 タラノスヨニルクウリヨシ付テ其
 上ニ是ヲ付ル瘰癧年ニ年モス
 ギテ又ニ六釐ヲ薄伸テ瘰癧程
 ニ丸クシテ裏ニ水銀ヲ塗木綿
 ニテ縫クアリ又其上ニモ水銀ヲ
 塗瘰癧一ニ押膏テ其上ニ此膏

茶シ木綿ニ伸テ付木綿ニテ

卷置也

寸六同銘

一ホウリスメリロウト 此文

一ホウリスカモネリ 拾文

一ホウリラウリイニ 七文

一小菱根 同

一アルトミシイヤ 同

一イリヤス 同

一シイペレス 拾文

一ヤニイジ 同

一カルタモシ 七文

一テルメニテイナ 同

一 ウイロク

同

一 ケイルハス

同

一 ヒイクス

六ツ

一 ナムラカ

早女

一 ツリヨスクシイ子

五女

一 牛油 野牛ニテモ麻ニテモ

加域

右煉合使但肉桂下香可加

口傳有リ

一 才セムラフラストラシイヨシヨシ

一 セイラ

早女

一 コホウ子

同

一 ヘウキスナワレス

同

一 古ロウクスツリエンターリス十六女

一 コメアモニヤコシ

一 コメカルハヌシ

一 ニステキス

一 メラヘ

一 テルメニテイナ

一 トウリス

一 アセイテ 葡萄酒ノ醋ニ成花ヲ育キ
ノ醋モ不苦

右アモニヤコシカルハヌシヲ醋ニテ煮

解シテ使煉様大事有奥ニ記ス

青七同銘

一 ゲイトルウス

早女

一 コロウクスツリエンターリス同

一 カルハスニ

大女

一 アモニヤコシ

同

一 ケルメンテイ十

同

一 ニステキース

同

一 ハルス

同

一 メラフヘ

同

一 アスン

五合

右カルハスニ アモニヤコシニ色ヲ醋

ニテ煮解ニテ布ニテノコシテ

テルメンテイ十ハルス ワスニ色ヲ

入テ煉合醋ノ氣晝迄煉テ後

オウラン 乳香 没薬ニ色

粉ニメ入煉合使 是ハ午足ノ

骨折タル時骨ヲ能モシ合筋

シ引伸テ付ルツニキタルニモ付ル

内ノ悪血ヲ去痛ヲ止

赤ハ 丑ニフラストテヤハル

言下カハル油
一 シリヨイテレス 三百目

アノ他
一 アシグゾニホワスイヨ 二百目

今ノ昂ス
一 レイタルキリヨシ 三百目

右ニ色ノ油ヲ煎シ水ニ落シルニ

玉上成テ不散時炉糟ノ抹ヲ入

煉堅ルニ半分程減タル時

言下カハル油
一 シトルヨウロニアル心 廿ニ色

右抹ヲ入煉堅使性ハ寒也諸ノ

愈膏月茶也皮ヲ生ス

才八同銘

合ノロス
シイタルキリヨシ

百斤

明ハヤキ也
アルヨシメノスト

十六女

トワノ士
セルイニヤ

同

端
ワス

百五十斤

三ノ油
シリヨシスホニス

五十女

右秤查シ粉ニメ醋ニテ水飛メ

干堅其抹メ右ノ蠟油煎解シテ

秤查シ入其後明瓦唐土抹瓦

才八同銘

合ノロス
シイタルキリヨシ

二斤半

三ノ油
シリヨシスホニス

同

股ノ油
ハルコムスヘワテ

二百十斤

一
アルヨシメノスト

四十斤

二
ヒワトルヨウロシアル

同

右二色ノ油ヲ煎ツメテ秤查シ

入煉堅冷テ後二色ノ抹茶ヲ

入別而良方也或昏ニ秤查シ斤

十女 丹瓦十女 生腦ヲ煉合

使上有也

才九
シラニホリ
ワシラニホリ

六拾四女

才十
黄瓶
セイラノウツ

六拾四女

才十一
榎ノ実
メルニロウレン

八女

荷土
一 ホウルスアルメニヤ 同

一 カンキタラコウニエ 四文

右セイラ油煎トカシ残四味粉ニ
メ煉合ル是ハ打身ニ吉下地ニ
ヨリヨリロシシ塗付テ其上ニ
付ル打破タルハ下地ニシヨイヒ
リコシシホワリニ浸疵ニ付テ其上
ニ是ヲ付テ吉

赤白
一 赤丸 同銘

一 カントロルウフルヨリ 十文

一 片サロロルウフルヨリ 十二文

一 カンフラ 二文

一 ワス 一斤半

一 シリヨメルテロウルシ 六文

一 セイモンメルテロウルシ 八文

一 ホウルスアルメニヤ 同

一 ヲリヨロサロロ 六文

右煉様同前 功能右同前

一 赤丸 同銘 アルニス自作

一 ホルトカルノ油 一斤
肉豆蔻ノ油モ吉

一 白蠟 半斤

一 金ノロカス 同

一 ホウルスアルメニヤ 同

一 カンフラ 一匁

一 五文
此脂花ノ水ニテ煎トカス

右煉合使

本敷合敷

山吹シロバナ シロバナ 山吹

山吹シロバナ シロバナ 山吹

山吹シロバナ シロバナ 山吹

山吹シロバナ シロバナ 山吹

山吹シロバナ シロバナ 山吹

山吹シロバナ シロバナ 山吹

山吹シロバナ シロバナ 山吹

山吹シロバナ シロバナ 山吹

山吹シロバナ シロバナ 山吹

山吹シロバナ シロバナ 山吹

山吹シロバナ シロバナ 山吹

山吹シロバナ シロバナ 山吹

山吹シロバナ シロバナ 山吹

山吹シロバナ シロバナ 山吹

山吹シロバナ シロバナ 山吹

山吹シロバナ シロバナ 山吹

山吹シロバナ シロバナ 山吹

山吹シロバナ シロバナ 山吹

山吹シロバナ シロバナ 山吹

山吹シロバナ シロバナ 山吹

山吹シロバナ シロバナ 山吹

山吹シロバナ シロバナ 山吹

山吹シロバナ シロバナ 山吹

山吹シロバナ シロバナ 山吹

山吹シロバナ シロバナ 山吹

山吹シロバナ シロバナ 山吹

山吹シロバナ シロバナ 山吹

赤丸同銘

剉粉

一斤

白檀

半斤

白蠟

半斤

ホルトカル油

小菰ノ實ノ汁葉ヲモ見合入

右煉合ル時テヤルニシ半斤入テ吉

中拾五フラストテニススイフヒキヨク

シ、リヨロサアロシ

シ、リヨメルテロウルシ

ソチイラテキスルテ同

セイラニシイラ

ホウリ丑イヌス

ホウリメルテロウルシ

ラ、テキスヨウリダニ見五分

ニステキス

メラフヘ

ツリハニ

リワタルヒイリアフリイ廿二分

リワタルヒイリアルカニテ同

ホウルスアルメニヤ

メイニイ

サニキヘイニシタラコウニス五分

レシスイビイニヨ

アキソクウヤペルセイ六十二分

アキソクウヤシフン同

右花ノ油榲油黄蠟煎解

葵根ノ汁葡萄酒ニ入其後抹茶
ヲ入其後白鳥油野牛油ニ合是
ハ余エシララストヨリク和也
功能最丹毒ニ効也

一 シシイコロシヨシ 十六条

一 コメアモセニヤコシ 同

一 シリヨフルヘイ子 二条

一 シリヨテレメシテイナ 同

一 シリヨスヒワセイ 同

右煉合使是ハ午足ニテモ何ク
ニテモ筋結リ痛時羊皮麻
皮杯ニ伸テ打也瘰癧タルニモ良

此ヲ打テソロクウヨカシテ良

一 赤十二エシララストヤホシホウリマ

一 ヲリヨレスホシス 四十二条

一 セイラアルヒ 廿四条

一 フロシヘイラステ 同

一 ツリハヌシ 五条

一 コステキス 四条

一 カシフラ 三条

右煉合使
赤十二同銘

一 セイラ 五拾月

一 唐土 百月

一 トシイヤ 十文

一 ホロニヘイツステ

同

一 フリハヌシ

同

一 オラヘ

同

一 タフノ油

十六分

一 ホルトカルノ油

廿二分

右煉合使右ニ方俱ニ皮シ愈ス

熱ヨリ発物ニ吉

オ十三ニエシラフストゲレシヨシ

一 ラヒスカラニナリス

拾分

一 リワタルヒイルアフレイ

廿二分

一 メニス

二分

一 スステキス

四分

一 カンアラ

二分

一 唐玉

五分

一 トシイヤ

同

一 セイラ

廿五分

一 テレメンテイナ

十分

一 フリハヌシ

四分

一 野牛油

七分

右煉合使是骨折タルヲ継

堅ニリシヲ和ケ腫ヲ減ス別而

切能多キ膏月茶也性微寒

折傷打撲切疵ニモ良氣腫

瘰癧結核ニ吉

オ十三ニ同銘メステレステキニ傳

アキソクウヤハルコム

六十日

一 ヲリヨイヒシ

百目

一金ノロカス

九二女

一 白胆蓉

二女

一 タイラミケラタ

同

一 ステキス

同

一 セイラ

斤

右煉合使是六愈菜也皮ヲ生ス

燒所ニ良

一 才十四 且シラステニニイヨ

一 辰砂

一斤

一 ホルトカノ油

二斤

一 セイラ

半斤

一 テレメシテイ十

四十目

一 ホロニハイシステ

九女

右煉合使是才一愈菜也

才十五 且シラステカラサテイヤ

一 瓶

四十目

一 草

同

一 野牛油

同

一 テレメシテイ十

九女

一 メラヘ

三女

一 ステキス

三女

一 ヘルテ

十女

右煉合使性ハ温メ燥也金ヲ捨

ニ吉打破打碎タル処ニ良腫物ニ

モ吉

赤十五同銘 是ハメステレアルニス傳

一 ^{ニ他}アセトウナノ油 八拾分

一 ^統セイウノウグ 四十五分

一 ^{サニ}エルホウ子 七分

一 ^{ロラセフ}銅青 惣ノ色付程ハ

右煉合使金土瘡或ハクニキ違分

中十六 五ニララストヲポテント

白蠟 ケイルウス 半分

一 金ノロカス 四十月

一 ^{木脂}エルホウ子 同

一 ラヒスカラミナリス 十分

一 ホルトカルノ油 一斤

一 ラホナアウス 十五分

一 サカハニ 同

一 ハタリヨ 同

一 アモニヤコ 同

一 白珊瑚珠 同

一 赤珊瑚珠 十五分

一 ミイラ 同

一 メラメ 同

一 シリハス 同

一 エルテ 同

一 コロウクスウリニターリス 同

一 メイ子イ 一斤

一 ホウラクス 五分

一 オルマラ 十五分

右煉合ニ大事有金三瘡腫物ノ
 愈膏膏其菜及夜シ生古症ニ甚
 吉力力年膏膏菜ト云是也

九月十六日同銘

- 一 ケイルワス 二斤
- 一 テレメシテイ十 一斤
- 一 ホルトルノ油 卅分
- 一 セルトウニヤノ汁 十分
- 一 エイレシラライシ 同
- 一 ヘイキホウムノ汁 同
- 一 アモニヤシ 五分五分
- 一 カルハヌシ 同
- 一 シホハナークス 同

乳樟脂
 石槲皮

- 一 エルホウニヤ 拾五分
- 一 ハアルステス 五分
- 一 ニステキス 三分五分
- 一 メラヘ 同
- 一 ウイロク 同
- 一 カルコシラ 同
- 一 磁石 拾五分
- 一 コロクスイルトス 五分
- 一 コロクスヘ子トス 拾分
- 一 ロウトスワトアルトハニヒウ 卅分
- 一 トウノ子ヤ 卅分
- 一 カルメイスティ 拾分

右煉合使性微疵早愈不腸

瘧三九シテ拾粒用

赤キセニシラクスト合テ云

ヨリヨレスホニス 判介

ヨリヨイヒリヨニ 四十目

合テワス 同

テレメンテイナ 同

リイメルキリヨニ 半介

カルハヌニ 百目

アモニヤヨニ 四十目

タリヨニ 同

カカヘン 七五目

ニイメ 同

シリハヌニ 同

メラス 同

白珊瑚珠 五目

赤珊瑚珠 同

ホル子ルカニル 四目

アインテイ子ヘラアル 拾目

ヨルクスニルトス 同

ラアヒスニシカ子イス社女

ラアテキスアリストロゲイヤ同

右煉様大事有脚氣筋氣

吉打身クシキタル所ニラニヨニ

是等分ニ合付ニ良

赤キハニシラクストトウニ

合テワス 半介

一 コムルシ子 無時ハニステキス
十五合

拾五合

一 ハルス

同

一 ホウ子キ

同

一 テルダシテイ十

拾五合

一 ツク子イフラシターユ 五合

右煉合頭ノ疵ニ良頭痛スル時ハ

ヒササキ動脈ノ処ニ付テ良

膏十九片ニフラストアルニス 是ハ凡ニス
自作由

白蠟

ケイルウス

一斤

松脂

ハルス

一斤半

乳

ウイロク

七合

杖脂

ウイロクニテイ十

四合

野油

ウイロクカモメリ

同

草油

ウイロクウリイ子

同

ウイロクニヨウカス

同

右煉合使 切疵ニ膏ニ吉焼酒

ニテ和ケテ付テ良此膏月菜ニテ

何様ノ療治モ無不成云フ

膏十九同銘

一 セイモロウリイ子 一合程

一 セイモシリイニ 五合

一 セイモシヘ子イゲシヘ 同

一 ウイロク 拾合

一 メラヘ 同

一 ウイロクカモメリ 同

一 ウイロクウロク 五合

一 テレメニテイナ 一 斤

一 コロウクスラリマナリ 一 十文

一 ケイルウス 一 斤

右煉合使

東十九同銘

一 セイモシゲソヘ 一 十文

一 セイモシリイニ 一 同

一 シルト只ンニルハ 一 十文

一 ラリヨホルトカ 一 半斤

一 ウイロク 一 十文

一 メラヘ 一 同

一 セイモ 一 半斤

一 アルホウシ 一 一 斤

一 カ子イイラ 一 十文

一 カシイイシタラコウニス 一 同

一 ホウチク 一 同

一 セルイシヤ 一 同

右煉合使 氣腫瘰癧塊ヲ
和ケ散ス一切ノ無名ノ毒腫無熱
無痛塊有二良

東北丹ニララストアルノウトテキセニ

一 シ、リヨレスホニス 一 二斤半 自作

一 テレメニテイナ 一 一 斤半

一 ケイルウス 一 二斤半

一 リイタルキリシ 一 一 斤半

一 フラントロウト 一 一 斤

- 一 セルイシヤ 四十条
- 一 ヲリヨメルテワクルニ 六十条
- 一 カルハヌニ 十六条
- 一 サフラスニ 同
- 一 ウイロク 同
- 一 マラノ 同
- 一 アサニテタ 同
- 一 白且 此二条
- 一 カシフラ 八条
- 一 与トルヨウロニ 同
- 一 アリキメクストニ 同
- 一 ヘルテ 此二条

白蜜 六十四条
 右煉合使功能瘰癧疔瘡氣
 腫風毒諸ノ毒腫難愈物ヲ
 愈立効

- 一 中世井ニクエタハセリコニ
 - 一 ^三白 九十九条
ラ、ル、レスホニス
 - 一 ^白ケイルワス 百目
 - 一 ^ヤハツキ 八十目
 - 一 ^ヤハルス 八十目
- 右煉合使瘰癧疔瘡陰陽虛
 實俱ニ下葉ニ是ヲ塗付其上
 ニエシフラストテヤキヨシヲ木綿

二伸テ傳ル其エシ本綿ニテ能
 々卷テ置也界ク膿ヲ口開事
 容シ口開後ハ人々ヤニ是ヲ塗テ
 指入膿血ヲ吸抜盡シテ愈肉ヲ
 吸上ル妙法ノ業也

才廿一方

セイ入

百廿文

ヘツキ

同

ハルス

同

ホルトカルノ油

三斤

右煉合功能同前

才廿一方

加須波留傳

セイラ

半斤

ヘツキ

同

コルサ子

二斤

ホルトカルノ油

同

右煉合功能同前

才廿一方

阿留曼須傳

ヤリヨレスホンス

一斤

ハルユスヘツテ

一斤半

ヘツテワス

半斤

ヘツキ

同

ウイロク

十文

メララベ

同

テルメンテイナ

卅文

アルホウシ

半斤

右蠟油煎へツキアノホウニ別鍋ニ
 テ煎解前油ニ其後乳液
 シ粉ニメ入泡立~~ニ~~迄煎布ニテ
 コシ查去使功能同前腫物燥
 タルヲ温シ痛ヲ止

オノヒ一又方
 マスニシヤニ傳

一ツキ一
 十月

一^{チヤニ}アルホウニ
 同

一^{胡ニ油}ホルトカルノ油
 同

一^{白瓶}麻ノ油
 廿女

一ケイルノワス
 四十女

右煉合功能同前

オノヒ一又方

一^{ツキ}へツキ
 百十月

一^{チヤニ}牛油
 百月

一^{チヤニ}アルホウニ
 十月

一^{ツキ}ホルトカルノ油
 二百十月

一^{ツキ}ワス
 加減

右煉合使 功能同前

オノヒ一又方

一^{ツキ}ホルトカルノ油
 十月

一^{ツキ}へツキ
 廿女

一^{ツキ}ワスケイル
 十女

一^{ツキ}ホルトカルノ油
 廿女

一^{ツキ}麻ノ油
 十女

右煉合使

松脂

丹世ニ井シクモシタテキステイフシ
テレメンテイ十 六十目

一 玉子黄

四ツ

一 ^{アセチル}ホルマリン

四ツ

一 タイラシケラタ

同

乳

一 ステキス

同

右テシメンテイ十玉子黄入攪更残

三色粉ニ入合ル金槍腫物肉ニ初

ヨリ切疵ニ付テ吉落馬打身打破

ルホリニ浸付其上ニテシテ付テ吉

カセニ又方

一 テルメンテイ十

九十目

一 セケラ

七目

一 ヲリヨロサロシ

同

一 スキス

二目

一 シリハスシ

同

一 玉子黄

二目

右色^ワニ合煉布ニテ濃醒テ後玉子

カセニ又方 ^{アルニス}傳

一 テルメンテイ十

七目

一 玉子黄

二目

右三色更合テ

シハリヨイヒリカシ ^{十目}

ホシ子キ ^同

ヲリヨニニヨウカス ^同

メラハ ^{六目}

右更合使火ニテ不煉ト 金瘡
初ヨリ付ル膿ヲ啗ラ上ル筋骨切
夕氣言腫物ノ愈因ラ上ニ吉

赤セニ又方

一 各メシテイナ 四十目

一 テレイゲイルニアル 三ツ分

右ニ更 更合

一 ツ、リヨロウサ 四十目

一 ツ、リヨスウトアメントト 十分

一 ヲウククスヲリマシタリ又五分

右ツニ研合ル火ヲ忌トシ

赤セニ又方

一 エルメンテイナ 廿分

一 ニステキス 四分

一 玉子黄 五分

一 白蜜 二分

一 ツ、リヨイヒリユシ 三分

一 セイラ 二分

右煉合使 功能同前

赤セニ三ツクスタアホネロウニ

一 ハルムスウテ 半分

一 テルメンテイナ 十分

一 同

一 同

一 同

一 同

胆丸

ラ、ル、ヨ、ロ、セ、メ、リ

二分

ヨ、リ、ヨ、イ、ヒ、リ、コ

同

四十月

右煉合使右蠟油テレシメテイナ
煎解ニ銅青胆丸ノ抹シテ其後
アルワイメラヘシテ入醋ニテ研解シ
置テ入更合功能一切腫物口
開テ後メイチヤニ塗テ指入臍
血ヲ能吮取腐肉ヲ流色ノ惡ヲ
直ス肌ヲ生ス若惡肉去菊ル時
ハレシヒタルツ加テ指入臍肉ヲ去
テ跡ニ付ハ肌ヲ生ス霜燒雪燒
ニ良ハニ瘡等ニ甚良

赤化三同銘

一 ウ、イ、ロ、ク

五分

一 ア、セ、ニ、ヤ、ミ

同

一 ツ、ホ、ナ、ク、ス

同

一 ヘ、タ、リ、ヨ、シ

同

一 カ、ル、ハ、ス、シ

右五色醋ニテ研解シ温テ

一 リ、イ、タ、ル、キ、リ、ヨ、シ 粉メ右下
研合 七分

一 ヲ、リ、ヨ、レ、ス、ホ、シ、ス 二分

一 タ、ル、ヒ、シ、テ、イ、ナ 九分

一 アル、ホ、ウ、シ 同

一 ケ、イ、ル、ワ、ス 同

右四色ヲ先煎解シ右ノ六味又

野白

オ、カ、車、油

鼠尾脂

六分

木脂

白豆

泡立止迄煎女冷シテ

一 ヘルテ 五女

一 アトロケリヤ 同

右三色粉ニ入煉合ル色悪ハ醋

ヲ女入ヨ其ニテモ色悪ハルテシ倍

入ヨ不苦 功能右同煎

中北ニ同銘

一 テルメンテイ十 拾四女

一 白蠟 同

一 アモニヤコシ 四女

一 シホナアクス 二女

一 アルホウシ 拾四女

一 エステキス 四女

一 メラヘ 同

一 カルハスシ 同

一 タリヨシ 六女

右九味ニ醋シ五合入浸七四五置

其後火ノ上ニテ煎解シ

アセトウチノ油ヲ拾女入煉合次ニ

一 ヘルテ 二女

一 アリストロウギヤロシク分同

一 リイタルギリヨシ 八女

右三色粉ニメ煉合ル 功能亦一

痔 吉月ノ廻ニ出タル瘡ニ青

ノ内ニ物出来タル時ハクメ綿ヲ

ヒ子リ其ナキニ付テ月ニ指 鼻茸

或ハ鼻ノ内ノ瘡ニ吉齒ノ膏ニテ
ニテ吉

赤丸三同銘 カスハル傳

一 ホルトカル油 半斤

一 テルメシテイ十 十四分

一 エルホウニヤ 同

一 アモニヤコシ 同

一 セイラフ 同

一 リイタルキリヨシ 九分

一 アリスドロゲイヤ 六分

一 メラヘ 同

一 ヲリハヌシ 同

一 カルハヌシ 四分

一 ヒツトルヨウロシ 五分

一 ヘルテノ 此上モ入 二分

一 醋 五分

右煉様口傳有之功能右同前

赤丸三同銘

一 アルホウシ 拾五分

一 クシロク 三分

一 ワス 九分

一 ラリハヌシ 二分五分

一 メラヘ 同

一 麻角霜 同

一 麻ノ油 五分

一 酢 三分

一 ヒョトリヨウロシ

十匁

一 ヘルテ

六十匁

右煉

赤七四井シク又シタ又ケブ子ヤシ

一 ホウ子キ

半斤

一 スハンスグルウ

十匁

一 スタルコアスイニ

半斤

一 アルメン

七匁

右度ニ入煉合凡色赤成迄煉ル
功能一切之瘡腫古ニ疵腐多時付
テ惡肉ヲ去シ癌疽腐深時焼
酒ヲ温テ此茶ヲ入カキ更水寒ヲ
以テ洗シ或虫瘡ノ類ニ付テ吉

赤七四同銘

一 白蜜

一斤

一 スタルコアスイニ

半斤

一 アルメン

十匁

一 ヘルテ

五十匁

右煉合使

赤七四同銘

一 アセイテ

葡萄美酒ノ醋ニ
日本醋モ

六拾月

一 ホウノク

五拾月

一 スハンスグルウ

七匁

一 ヒョトリヨウロシ

四十匁

一 アルメン

六十匁

右煉使

中七高同錠

一 ホウ子キ

百四十目

一 アスイシ

七拾月

一 ヘルテ

五十目

一 アルメシ

十文

右煉使

赤七五井シク五シタテアルテイヤ

一 雁ノ油

七文

一 大ノ油

同

一 里鴨ノ油

同

一 野狐ノ油

同

一 筒香油

同

一 野菊ノ油

拾文

一 タブノ油

同

一 蚯蚓ノ油

同

一 スハカヘノ油

五文

一 石ノ油

同

一 テレメンテイナ

同

一 セイラ

羊斤

一 アラキ

十五文

右煉合使是六火温之肉シト只瘦

テ筋結タル処ニ塗付テ其上ニ

シシヨシヨシメリロウト杯ヲ付テ吉

赤七五同錠

一 小菱根

百九十二文

一 小麻仁

九十二文

胡蘆芭

同

右三毫粉ニ入熟湯六百目ニ浸攪
交鳥毛千ノ如ニ入タル時布ニテ
コシ査去

一 小ルトカルフノ油

三百六十文

荳之

九十六文

一 松脂 テレメシテイナ

十六文

一 松脂 エルホウ子

四十八文

右テレメシイナニエルホウ子小ルトカルフ
油煎トカシテ右ノ湯上ツニ合セ
ラシ入煉合使是肉不落シテ
筋痛ニ吉
才七五同銘

一 小ルトカルフノ油

一斤

一 三三ニ セイモシ子ケイテ

半斤

一 三三ニ セイモシリイニ

半

一 種葱白

四十月

右四毫持メ水ニ浸三日置テ示
リ出シ其汁ニ

一 大油 シノヨリスホニス

二斤

右トウニ煎水氣去テ

一 白豆 ナイルワス

半斤

一 松脂 ハルス

四十月

一 松脂 テルメシテイナ

拾文

一 松油 コタリヨシ

七文

右四毫入煉合ル

功能 祛氣

脚氣或シキタル處ニ言ハレ結
不伸所ニ言ハレ寒ヨリ発タル言
寒タル言

赤北六サシクモタアルフシロララトシ

一 シ、リヨロカ、ロシ 百十文

一 ヘ、テ、ワ、ス 廿二文

一 セ、ル、イ、シ、ヤ 半斤

一 カ、シ、ラ、ラ 二文

右煉合使性ハ寒痛シ止腫シ
減熱ヲ醒ス草瘡裸疫ニ言腫
物疵廻ニ付ハ惡血ヲ押散テ吉

中北六同銘

一 シ、リ、ヨ、ロ、カ、ロ、シ 九十六文

一 セ、イ、ラ、ア、ル、ビ 七四文

一 セ、ル、イ、シ、ヤ 四十八文

一 カ、シ、ラ、ラ 二文

右煉合使

赤北六同銘

一 シ、リ、ヨ、ロ、カ、ロ、シ 五十五文

一 セ、ル、イ、シ、ヤ 六十五文

一 ヘ、テ、ワ、ス 廿二文

一 シ、リ、ヨ、ロ、カ、ロ、シ 三十分

一 カ、シ、ラ、ラ 十文

右蠟油煎解シ唐土ニ林久入交合
冷テ玉子ノ白身ヲ入其後撞臍
ヲ入ル功能熱生ノ病ニ言右同銘

青七七 丹クモニクヤトクニ

ハルモスウテ 一斤

ロイビ 六十目

種葱白 廿支

ソウト 十支

ロウズノウホイ子キ 廿支

ヨリヨウサ 同

ヨリヨカンフラ 同

ヨリヨアメント 同

ケイルワス 六十目

右煉合使是焼迹ニ吉他医
療治は損腐多時付テ吉
青七七同銘

一 ヲリヨロカロロ 百廿支

一 ハテワス 四十支

一 ヲリヨリイ子 百廿支

右煎解テ

一 ラヒスカラニナリス 廿二支

一 レイタルキリヨニ 廿四支

一 タイラシケク 廿二支

一 カンフラ 竜腦ナラニ入ル 四支

右四色粉ニメ入煉合使湯火

傷損ニ吉一七日付テ其後

テヤホニホリウ傳ヨ鉄鉋ノ葉ニテ

焼タルニ猶吉

青七八 丹クモニクヤトクニ

一 右 葛 葉 若 列 一 斤
一 右 葛 葉 若 列 一 斤

右 三 色 研 合 在 壺 入 熱 灰 上 置
六 七 月 後 二 ホリ 糟 去 又 別 葛 葉 若

列 一 斤 右 油 入 六 七 月 右 留 置
シ ホリ 糟 去 又 別 葛 葉 若 一 斤

右 油 入 右 如 置 其 後 二 ホリ
糟 去 テ 其 油

一 蕪 種 抹 入 四 十 日

一 玉 子 油 拾 分

一 乳 香 燒 酒 煎 解 七 分

白 文 へ ッ テ ロ ス 同

右 煉 合 使 功 能 雪 痛 霜 痛

ア カ 切 等 ニ 吉 冷 ヲ リ 灸 病 症 六 何
ニ 七 吉

才 九 九 井 シ ヲ ス ニ ヲ サ 一 日

一 外 油 一 斤
一 八 ル コ ム ス へ ッ テ 一 斤

一 フ ロ ウ リ ス ロ サ 一 日 一 斤

右 一 二 清 置 テ 十 余 日 月 三 乾

夜 八 熱 灰 上 置 其 後 能 々

研 合 使 熱 症 ノ 初 灸 二 付 テ

痛 ヲ 止 テ 押 散 頭 痛 三 塗 付

テ 良 熱 有 テ 心 腹 痛 三 付 テ 良

才 九 九 同 銘

一 ア キ ソ ク ウ ヤ ホ ル セ イ 九 分

右 煎 解 シ

一 赤茨ノ花

十歳、

右花ヲワシニテ入ビイト古ノ徳利
ニ入ロウ封メ五十日程置テ布ニ
テカシ查去 果破持メ女入更合
置之上氣シテ面ニ瘡生ニ塗吉
身ニ小瘡出タルニ下地ニ輕粉ヲ
塗其上ニ是ヲ塗付テ吉
亦此共シク五ニタメニキススアリ

一 シルト只ニルハ

八十目

一 カメモメリ

四十目

一 アルトミシイカノ糸

八十目

一 丹草

四十目

一 南蛮柿 ナキ時ハ半柿

半竹

一 檉葱白

半

右水ニテ粘ノ如ニ煎解シ

一 シリヨカメモリ

半竹

一 シリヨシリヨウロシ

同

一 ケイルワス

同

一 コロウクスシリユニタリト女

右一度ニ入火ヲ静ニメ煉合冷メ

サフラシ粉ニメ入更合使

功能 癩疽疔其外一切ノ腫物

初灸ニ付テ痛ヲ止腫ヲ減乳

風等ニ良

亦此一サシユニタマアノカヒス

一 サシユニタマルフンカンフアト 粟首

一 井シクエシタヌワテルトシ 同
 一 井シクエシタヌワサロシ 同
 一 クイギスルフル 十女
 一 スルフル 四十月
 右ワニ研合使 功能諸ノ草
 瘡疥 癬ニ吉 楊梅瘡 天疱瘡
 三忌

一 井シクエシタヌケヌトシ
 一 井シクエシタヌハシリヨシ 四十月
 一 井シクエシタヌアホストロウシ 同
 一 井シクエシタヌステイゴシ 十女
 一 井シクエシタヌケフキヤヨシ 同
 右ワニ研合使 功能諸ノ腐物 唐

瘡等ニ甚吉 膿血ヲ吮 拔腐シ去

一 金 八十日
 一 塵 七十女
 一 一 百七十女
 一 一 八十日
 一 一 八十日

右金ノ口カス 唐ノ玉粉ニメ 右ワニ
 リヨロサロシヲ入 研立醋シ入半時
 程 研合リシララシニ 入研合使
 功能 熱性 腫物 廻ニ付 腫物
 大半ニ不腐 押茶吉下 痔瘡 吉
 便毒 押ニ使
 一 一 三同銘

一 銀ノロカス

一斤ノ

一 シヨルイシヤ

廿二文

一 カシワラ

二文

右 柿ノ醋ニ三日浸置テ醋ヲ去テ
ホルトカル油ヲ入石臼杵ニテ研合ル
力卅三同銘

一 ホルトカルノ油

百廿文

一 アセイイナ

四十文

右ヲ能交合

一 セルイシヤ

四十文

一 リイタルキリシ

廿二文

右ニ色粉ニメ研合使是モ功能
同前赤草 燃草 走草 火倉

アセボ等ニ吉

一 赤卅四井シクダシイイゲラシズ

一 ヘツテハス

卅二文

一 ヲリヨロサロシ

六十文

一 ヲリヨカラツフス

同

一 ケイルワス

十二文

右四色煉合使是ハビ、アカ切吉

一 赤卅五井シクダシイイゲラシズ

一 ホウリバウバウラス

卅二文

一 ホウリニシタラコウラ

同

一 ホウリユスクヤメ

同

一 ホウリソラ子

同

一 ホウリセシヒロハ

同

一 ホウリカワヘレ子ス 同

一 ホウリヒヨウラ 同

一 ハルコニスヘウチ 此六女

一 右ノ草ノ葉皆々抹メ右ノルコニス
ヘウチニ入煉合

一 ホウリホウヨリヨシ 百廿女

一 ワイトロウサ 同

一 右ホウヨリヨシノ葉ヲ抹メ花水
入微火ニテ能煉布ニテヨシ糟ヲ
去此水ヲ右ノ煉タル茶ニ入更合ル
性ハ寒ニ走草 燃草火之瘡湯火
傷ニ吉ニテヘニスイフニ無之時代茶

ニ使テ吉

中此五同銘

一 ラウヨウロシホウコシイ 二百廿八女

一 アラクツニホウスイ子 五百七十六女

右ニ色一ツニ漬置テ

一 ハロバルター子 二撮

一 ヘヨウステセヤメ 同

一 ラツトウカ 同

一 ミタラミウラ 同

一 ヘハハワハヘレス子 同

一 センヒロヒーバヨウ 四撮

一 ヘハソラトロン 二撮

一 ヘハラニヒリイナ子 同

一 セニアロンドウビイ 同

一 ヘレビヨラウロシ 同入

右煉合時葡萄酒少加テ吉
赤世六井シクモシタウエテカニル自作

一 ホルトカルの油 五十目

一 ヲリヨカラウフス 同

一 大楓子油 五糸

一 ウエツテワス 廿五糸

一 シヨルイニヤ 半斤

一 カシフル 一糸

一 スコス 五糸

右煉合使 功能カシラトシ百倍セリ
赤世七井シクモシタウエテニイニ自作

一 ホルトカルの油 五十目

一 ハンゴムスヘウテ 十糸

一 ヲリヨカラウフス 同

一 ケイルワス 廿五糸

一 ミイニヨ 半斤

一 ミニイヨ 五糸

一 サンギペイシダラゴウニス 同

一 ゲイルルエル 五糸

右煉合使

赤世八井シクモシタウエテグシカスル

一 ホルトカルの油 半斤

一 ソラトロン 同

一 ウエツテワス 加減

一 セルイニヤ 五糸

一ニキレアルヒ

十文

一ワロニヘイラステ

同

右煉合使

赤朮九升ニクマシタラリヨシ

一ゲイルワス

六十目

一ホルトカルノ油

一斤

一テレオシテイナ

廿文

一コルホウニヤ

廿文

一ニステキス

十文

一メラス

同

一ヨロウクスツリエンターリ廿文

右煉合使性ハ温之湿シ拂能散

折身クニキタルニ甚吉

一赤四十升ニクマシタラフヤアマ

一アヒヨシ 水ニ煮解

五分

一セイモシユスクヤアメ

一匁

一セイモシヘステセイ

同

一ムルトセスミシラコウラ同

右三色粉ニメアヒシ水ニテ剪解

粉茶ヲ入煉合使功能腫物底

膿テ厚皮有テ針スル事難成

時此茶シク付一時程置テ此茶

シ除テ其処ヲ針スルニ痛不覚

切タキニ切也此茶付ルニ甚痛

物ニ久ク付不置腐過物ニ

赤四十一フル子ルカンフル

ウツキ
一 槍ノ耳肌

大

一 ホルトカルノ油

同

一 シマリヨカラウツス

中

一 唐尾粉

同

一 龍腦

女

右ニ色ノ油ニウツキノ耳肌ヲ入煎

ウツキ焦タレ時布ニテコシ査去リ

唐尾粉ヲ入更合冷メ龍腦ヲ

入更合壺ニ入ロウ封メ九月程置

テ疵ニ使実疵ニ才一吉

才四十二井シクモシタヒニカルナアテ

一 松脂
ユルホウ子

十女

一 乳
ウイロク

九女

一 没
メラヘ

同

一 白
ワス

同

一 一
カキヘイシメラウエ

三女

一 一
ホウチク

同

一 一
アルメン

同

一 一
テルメンテイナ

九女

一 一
ホルドカルノ油

見合入

右煉合諸腫物愈膏月茶也

虚症ノ腫物ニ甚吉能肉シ上テ

心能愈ス

才一斗ニ井シクモシタヒニカカリヨウフイ

一 一
アホウシ

一斤

一 一
カリヨウフイ

世二女

コルテカリヨロシイ 十六条

カ子イラ 同

ケイルウス 同

シ、リヨシスホニス 見合

シ、リヨカラウフス 十六条

右煉合使

中四十四并シタカニルアルシヒ

^{樟腦}カニフル 四条

^{片腦}カニフラ 十条

^{唐土}セルイシヤ 同

^{乳香}ウイロク 同

^{豚ノ外油}ハルゴムスウテ 同 見合入

カニイサ

右灸の内油煎布ニテヨシ唐土
ヲ入煉合冷シテ兩腦ヲ入カニイ
オホワリ割テ入ル七四時

又方

カニフル 四条

カニフラ 十六条

セルイシヤ 同

ハルゴムスウテ 同

ヲ、リヨメニス 五条

アルホウシ 十六条

カニイサ 見合

右煉合使七四時

又方

ハスロ

一匁

カシラ

同

輕粉

同

朱

同

セルイシヤ

十匁

赤螺

同

セイラ

同

シリヨロウサ

七匁

テルメンテイナ

十匁

右煉合使十二時

赤四十五井シクマシタハストロ

ウリヨロウサ

四十八匁

ホウ子キ

同

ニキレアルヒ

八匁

ハストロ

半斤

青木葉

七匁

ウイロク

四匁

ウテワス

七匁

右煉合使癌疽腐去テ後

アホストロウルニ

テキステイフン杯シ付テ痛有

ハ此シ平メイテヤニ塗テ付ル痛

ヲ止テ膿ヲ吸肉ソ上ル方

又方

ソク子イハストロ

四十八匁

イホウシ

同

ツリヨロウワリキニ 十六分
ヘツキ 四十分

ツリヨニキレアルヘ 四分

ウストルニケルフエト 十分

ツリヨホルトカル 廿二分

セイイラフ 八分

右煉合使

才四十六升クモニタスカヒウサ

苳蓉青葉

ホウリニルハ

ホウリユエントロ

ホウリニクリ

ホウリスカヒヨウサ

五竜草ノ葉

金銀花 各五分

ツリヨホルトカル

ツリヨカラワフス

アラクソニホウズイニヨ 各五分

右煎水氣無是時布ニテエミ

査去蠅シテ加テ煉合使

諸ノ痛シ和テ腫シ減ス

才四十七升クモニタウエニテテ

アムホウシ 四十八分

ツリヨカラワフス 廿二分

ウイロク 八分

ウエシテシエ 同

一 夕尾九ノイ此 十六女

右煉合冷テ玉子ノ黄トワ程入
瘡疽虚ニ愈因上ノ煎時平ノイキ
ニ浸ニテ付ル

赤四十八萬應無三膏ニヨリト号

一人参 當飯 玄参 肉桂

黄芩 山梔子 川芎 木鱉

黄連 大黃 沉香 地黃

白芷 木香 蘇金 芍薬

右各五ノイ 青木葉 五十枚

右刻香油一升浸春五夏三秋七
冬十其後煎俟茶焦用布漚
清水查去黄丹一斤入再煎作黒色

為度俟冷 乳香 沒薬 兜茶

血碓 輕粉 各五ノイ 為極末入攪勻

阿蘭陀外科書卷之下目錄

表一 口ウサノ油取様并能

表二 口カーロシノ油

表三 カモメリノ油

表四 アルテイヤノ油

表五 シンクテイヤノ油

表六 イヒリクミンノ油

表七 シヨウラスノ油

表八 シリヨウロシノ油

表九 サシホウシノ油

表十 メンテシノ油

十一

プルセチン油

十二

アニイシン油

十三

ヘニグリン油

十四

ラヘントロ油

十五

ムスカリタ油

十六

カリヨウフシイノ油

十七

テルメンテイ十油

十八

プルトリ油

十九

ヘイテレ油

二十

カンフル油

廿一

スクシイ子油

廿二

パラニミヤウロノ油

廿三

セイラノ油

廿四

メルテロウルノ油

廿五

フウリイ子ノ油

廿六

ホウホウリミノ油

廿七

シナモミノ油

廿八

セ子イフルノ油

廿九

シホロムノ油

三十

ケンフルノ油

卅一

ホウスノ油

卅二

ダアスノ油

卅三

ホントハツチノ油

卅四

ヲウランノ油

卅五

ルイトノ油

卅六

ホロンヘイノ油

卅七

マルテニツヒニイテシノ油

卅八

ライニラノ油

卅九

ヒラトルヨウロンノ油

四十

ソルフラノ油

四十一

スルフルノ油

四十二

セントヘイノ油

四十三

ロウフレイスウロンノ油

四十四

ハルサモ 梅様并能

四十五

ムスラケニラスノ油

四十六

ソラトロンノ油

四十七

ヒイテノ油

四十八

モントウニラノ油

四十九

ベンケシコイトノ油

五十

アルトニミシイヤ油

五十一

メリロウノテノ油

五十二

イリヤウスノ油

五十三

アメンドン油

五十四

ワアトロサアノ取様

五十五

ワアトロヒニク

五十六

アノクワヒイテシウルニテリクワリ

五十七

カ子イラ酒方

五十八

ヨ子ヘレ酒方

五十九

如意金黃散

六十

玉竜草散

六十一

猪蹄湯

六十二

雄黄珍珠散

六十三

天花白芷散

六十四

落馬療治妙茶

六十五

神仙解毒丸

六十六

類聖散

六十七

追毒散

六十八

疔瘡拔茶

乙切草油 早天日ハ前ハ漆器
撮取テ青キサヲ取リ去リテ花ヒラサカガリテ
白シホリノ浸シ日々取リ積リ後ニ油ヒタノハテ
上ニ長春ト云ヒ上ノ赤ク次ニ衣ニホト入レロク
密封シ夏ニ日中ニ晒シ夜ハ熱ク灰ノ上ニ
置キ百日ホステ用ス布ニテモ或ソノモ、
漆ニ盛レハ露カハクモナリ
○ヲリトハ仲ノ

一丈一ツリヨロウサ 冷性

南蠻茨ノ花ノ油也取様ハ花ツ摘

テホルトカルノ油ニヒタ々ニ浸シロク

能封ノ月夜熱灰ノ上ニ器俱ニ居

置百日程経テ後布ニテニホリ

出シ糟去使

加能ト熱シテ痛者ニ吉痛止

小瘡ツ愈ス

午足瘻夕ハ時温テ塗付テ吉出

瘡ノ類ニ付テ吉

一才子、シリヨロカ、冷性

日本白茨花ノ油也取様右同前
功能大抵右同前

一才子、シリヨカモナリ、熱性

野菊ノ花ノ油也取様ロウサ同前功
能冷タル処ニ塗付ル筋痛ニ良風湿ノ
腫シ消シ小瘡ヲ治吞テニ便ソ通ス
其外無名ノ痛ニ良

一才子、シリヨアルテイヤ、温性

小菱ノ花ノ油也取様ロウサ同前功
能筋氣中風ニ塗テ吉他薬ト加味

シテ付ヨ

一才子、シリヨシクテイヤ、熱性

女昂花ノ油也取様ロウサ同前功能
風ヲ去冷タル所ヲ温ル筋ヲ伸ル也

リヨシノ油ノ能同前ニ便テ吉

一才子、シリヨイヒリヨシ、熱性

夏、土用ノ花因テ一名土用中氏云切草ノ花ノ油也一名土用草俱云

油取様ロウサ同前功能才一疵ニ吉筋
切タルニ吉腰脚牛足無名ノ痛ニ吉耳

内ノ痛ニ温テ再ニラニ入ル打身

ニテ腰痛ニ酒ニ入テ吞セ筋引ルニ吉

一才セシリヨヒヨウラ^ク寒性

駒引草ノ花ノ油也取様ロウカ同前

切能熱症ノ痛ニ吉熱メ赤身塗

テ良丹毒ニ良

東武ノ俗スミレ草ト云フ庭
ウチテ多クサレ紫白ニアリ

一才ハシリヨリヨウ^ク

温性

白百合花ノ油也取様ロウカ同前功能

痛シ和ケ筋ヲ伸殊ニ女人ニ甚吉ソ

難産ノ時温テ小腹ニモ産門ニモ塗

付カセヨ産前十四五日前ヨリ此油ヲ

小腹陰門ノ廻ニ温テヌラセテ吉難

産スル莫無是

一才九シリヨカシホウ^ク

温性

山燈心花ノ油也取様ロウカ同前功

能打身ニ塗付テ吉酒ニ入吞セテ

モ吉胃虚シテ顔色悪ニ吞テ吉

口中苦味有時ニメシテノ油ヲ加テ用

テ吉メシテノ油ナキ時ハアラセシテノ

油ヲ加テ用テ良

一才十^クヨメシテ

微油性

薄荷草ノ油也取様葉ヲ刻研テ

ホルトカル油シヒクニ入器ノ口ニ能

封シ日夜熱灰ノ上ニ置テ百日程

經之後布ニテシバ^ル也^ル直去使
功能氣乱タル時少死用産後ニ甚
吉不食ニ胸ニツカタル時酒ニテ用^テ言
一^ク赤土^ニス^ルリ^キア^フセ^ニテ 温性

此草蓬ニ似リ向蘭陀人持渡味苦
辛ニ油取様^ノニ^テ同前虫下^ニ

如此積蟲腹中ニ有^テ患者此

油ツ吞セテ吉寸白ノ虫ニ此油ニ蜜

シ^テ文^テ吞ス^レハ彼虫^ニ年^シ喜^ニ

受^テ食^シ則^チ虫消^ル也腫物金瘡^ニ

重^ク食^ハ月^ノ采^持右ノ草^シ煎^テ洗^テ

ヒリ^コシ^ノ油 或曰朝露之内

取^テ花^ニ漆^塗物^ニ油^浸長^春

云^ハ赤^花之^葉花^ヲ取^リツ^ク入^道也

夕ノ^景ノ^不ニ^ル年^ノ白^目

テ有^者シ^テ十五^日程^経テ^至テ^見

此^ニ年^負ハ^疔不^痛死^人ハ^身不^腐

ニ^テ有^タリ^其年^負共^シ此^草ヲ

以^テ療^治ス^ルニ^一人^を誤^愈タ^リ

經之後布ニテシボリ也其直去使

功能氣乱タル時死用産後ニ甚

吉不食ニ胸ニワカタル時酒ニテ用ニ吉

一才土 又リキアフセニテ 温性

此草蓬ニ似リ阿蘭陀人持渡味苦

辛ニ油取様メニテ同前蟲下ニ

如此積蟲腹中ニ有テ患者此

油ツ吞セテ吉寸白ノ虫ハ此油ニ蜜

シ文テ吞スルハ彼虫并シ喜テ

受テ食シ則虫消ル也腫物金瘡毒

唐瘡府内深時右ノ草シ煎テ洗テ

吉惣而脾胃ノ良茶ニ故ニ毎日酒

ニ入用テ良

此草良茶ト云事一五十年以來

知タト也其子細ハ軍有テ午負

死人數多有是此草ノ内ニ倒卧

テ有者ニ十五日程経テ至テ見

ルニ午負ハ疵不痛死人ハ身不腐

ニテ有タリ其午負共シ此草ヲ

以テ療治スルニ一人免テ誤愈タリ

其時ヨリ此草ヲ用ス其草イタリヤト
云國ノ河海ノ辺ニ多有是ト云リ

一才十二 シリヨアニイシ 熱性

大茴香油也取様茴香粉ニ拾支

ニアセトウナノ油四支程入小キランヒキニ

テ煎取シ壺ニ入置六油ハ下ニ沉也浮タ

ル水ハ捨ルニ功能腹中強リ腹鳴時

酒ニテ女宛用積聚ニモ月様同

前風引タル時女宛用腹中ニ風

有時雞ノエテ汁ニテ用或ハ湯ニテ

モ用痰出ルニモ小使結タルニモ湯ニ

テ用ル

一才十三 シリヨヘニクリ 温性

小茴香油也取様ハ右同前功能右

アニイシヨリ七弱ニ

一才十四 シリヨラヘン占 温性

小茴香ノ如ク九草ナリ
イノシトノ油也取様右同前之但葉

ヲ油ニ取時ハメシテ同前功能疵ノ

痛ヲ止ル冷タル所ニ良中風筋氣

ニ吉或此草ノ葉汁ニ茴香ノ葉ノ

汁椰子ノ油ニ色煉合テ使

一才十五 シリヨムス力強 熱性

肉豆蔻ノ油也肉豆蔻粉ニメカニ
水拾五斗入ラシキニテ煎取ノ油ハ
上ニ浮也煎タル水モ腹中下ニ時用
キ盡併油粒ニ強ハ無是也功能腹
下ニ時淡ノ花ノ蜜漬ノ汁ニ此油四
五滴入テ用テ此右ノ漬物無是時
ハカセイタニ交テ用ル息短セニキ嗽有
時古ノ上ニ置自然ニ吞入ル氣ヲ強
遠走テノ息セシクニモ用ル痰ニ七吉
夜寢入カクキ時温酒ニテ用テ吉不
食ニ七酒ニテ用腹痛ニ七酒ニテ用

頭痛ニモ心痛ニ七用テ吉

一才十六ヨリヨカリヨウフレイ 熱性

丁子ノ油也取様粉ニメ肉豆蔻同前
功能筋氣脚氣ニ吉大熱ノ油故ニ他
菜ト合テ使ヘシ中風ニモ耳不聞時
若アメントノ油ニメ此油ニ交合温
テ耳入テ良酒ト少宛入テ用ハ知意
少益トシ虫食虫ニ付テ吉

一才十七ヨリヨルメンテイ十 熱性

才一病菜也切疵筋切カニ專使毒
虫食痛ニ付ヨクイタヤル時ハ綿

一浸疵口ニ付ヨ其工ヨリ燒金ニ當テ
ヨ油内ニシ入折込タル杵出ル物也年足
筋伸屈不成時此油ニ野菊油
力切草油加テ付テ吉筋切難キ成
時患廻ニ塗付テ疵ハテヘンスイフ
付テ吉脚氣ニモ塗テ吉打身ニ患
ニ麻病ニ酒ニ入少死用テ吉穴深物
ニ水突ニテ内ニ入レハ愈肉シ上ル此外
色々ニ使也

一才十八ヨリヨアルト

熱性

エノ油也アチヤント云國ノ山川ノ流水ノ上
浮テ流シ汲取テ煎シ水氣ヲ去テ使
ト也日本ニモ越後國信濃ノ國ニ有
是也功能ハ中風脚氣筋氣ニ甚吉
冷タル所ヲ温ル女人小腹強時付テ吉
一十九ヨリヨヘイテシ

熱性

石ノ油也日本ニテハ筑前小屋ノ瀬ト
云処ニ此石有其所ノ里人は是ヲ薪ニ
燒也甚真油出ル物也此石ヲ碎テ
ホルトカルノ油ニ浸ラシヒキニテ煎取
功能土ノ油同前但テ身ニ甚良燥
性成故ニ湿シ枯シ

一、身七ツリヨカシフル 熱性

龍腦ノ油也碎テホルトカレノ油ニ浸器

ハコニ封メ月夜熱灰ノ上ニ置テ一月

程經テ使也 功能打身切疵ニ吉

毒虫喰タルニ吉惡血ヲ去ル小瘡虫瘡

ニ良

一、身六一ツリヨスクシイ子 熱性

琥珀ノ油也琥珀粉ニメ百目ニ水百

五拾同入ラシヒキニテ煎取ト也

功能心悸ニ酒ニテ二三滴用腹中痛

ニ酒ニテ月長血止ノ時ハ湯ニテ

用癩癩ニ湯石淋淋病氣ハ箇者

煎其汁ニテ用芥ノ煎汁ニテ七月

頭痛ニ頭重時ハ鼻ノ内ニ塗テ吉マ

カニニ塗テ吉鼻血出ルニニ鼻ニ

塗テ吉産後ニ血外顔色赤時テ

吞セ鼻ノ下ニ塗テ吉

一、身七ニツリヨアラシヤウロシ 温性

蟻楫皮ノ油也取楫皮ヲ刻ニ七日程

水ニ浸腐シラシヒキニテ煎取也

功能冷々所ニ塗付テ吉胃風

有テ患ニ箇香ノ油ニ加テ用テ吉

瘰癧ニモ用テ良

一才七三ニヨリヨセイラ

平性

蜂蟻ノ油也取様蠟シカララト煮立
ホルトカルノ油シ入交合布ニテタシ使

功能血ヲ生強堅スル也筋氣ニ腫

痛ニ吉不仁所ニ塗テ吉辛ニテ

ラ筋ヒキワルニ吉

一才九四ヲリヨメルテロウルニ温性

櫃ノ實ノ油也取様上皮ヲ去粉ヲ

蒸メシメ出ス月本胡麻ノ油取同

功能金瘡腫物ノ肉シエニ思特

ヒトリニンノ油ト等令ニ合温テ付テ

吉才一疵ヲ能治ス但古疵古腫物

ニ惡シ

一才七五ニヨリヨウリイ子温燥性

タノ油葉ノ若目ニニテモ天ハ實ノ

熟タルニテモ取也

功能ハ身内何クニテモ打クホメタル處

ニ塗付ハ滿テ平ニ成也高ク腫上リ

タルニ鈆ノ油ニ分一加テ付テ吉鳥

獸魚虫諸ノ毒ニ所中タルニ付テ

毒食胸ニツカヘテ吐スル時此油温テ

水落ニ付テ吉筋痛ニ付テ吉

一寸七六ツリヨホツホウリヨシ 冷性

黒ノ木ノ葉也取様ハメシテノ油取ト

同前右タヅノ如若目立ヲ取テ油ニ

浸テ良

功能頭痛ニ塗テ吉骨打折タル

時テヘンスイブシ付テ其上ニ此油

ヲ付ハ肩和ト云リ此木ノ實ノ油

ヲソマリヨウニソラーニト云シ能ハ

大楓子ノ油ニ同シ愈物也

一ツクセツリヨシチセシ

熱性

肉桂ノ油也取様肉桂シト皮去粉ニメ

ホルトカルノ油ニ浸五十月程置テ

煎布ニテ濾使或ハ如右粉ニメ水ニ

浸ラシヒキニテ煎シテモ取也

功能心気不足者ニ吉但吞セニ吉

懐妊四ヶ月時分ニ怒事或笑

麦杯過テ胎脱スル時酒ニテ用テ

吉母気シ強シテ胎脱セヌ又氣乱

ニモ吉惣而心ヨリ發ル病ニ吉冷ニ

血噴難ニ付吉

子月七八ヨリヨセ子不見 温性

松ノ實ノ油也。ムロツ木ノ實ニ
此實ヲ粉ニメホルトカルノ油ニ浸ラシ
煎テ取ル

功能小便秘結ニ用テ良石淋淋病

類ニハ用ニテ用テ吉産後腰

痛時用胞衣杯不下時用者

一青丸九ツリヨウホロ 温性

雞卵ノ油也取様卵黃討取テ

鍋ニテ煎付布ニテシホリ出ス

功能寸白罽玉ニ入タル時付ハ腫

納ル頭ニ腫物出来ハケル

時付ハ毛生ル腫物堅リ不膿ニ付

ハ和散也面草ト云テ面ニ黒キツ

バノ糟ノ如成物有是ニ切ニ塗付者

一青丸 温性

姜ノ油也取様上皮ツ去剝研ニ示

トカルノ油ツ入煎取也

功能風濕ノ腫物ニ塗付テ良風シ

引鼻け出患ニ酒ニテテ完用痰

咳ニ吉甚寒ニテ鼻引ノ事不

成時木綿ニ浸鼻ニ捻入テ吉

一青丸 一ツリヨウホロス 熱性

野狐ノ油也取様身シ初刻テ身

一升ニホルトカルノ油一升水一升同煮

薄皮何イノント者一撮充入煎水氣

去テ後布ニテヨコ査去テ使

功能皮膚不仁ニ塗付テ吉筋結

ルニ吉血氣ノ順シテ吉或外科ノ

曰此油取方ニホルトカルノ油升ニ雨水

一升潮一升常ノ水升入煎諾テ布

ニテヨコ取ト云リ

一升此ニツリヨクアス

温性

檀ノ油也取様右同煎是ニ内油

モ有ニ能大抵狐同煎

一升此ユツリヨホントウテ

燥熱性

大ノ内油也油処シ取煎ル也

功能老人ノ筋痛ニ吉玉子ノ油ニ加テ

寸白ニ塗テ吉

一升此四ツリヨウウラ

微油

金ノ油也塩硝塩硫黄加テ金シ

焼也粉ニテ琉璃ノ右釜ニ入砂ニ埋砂

ノ下ニ炭シ置琉璃ノ焼不割様

焼此津液シ油ト云

功能天地ノ惡氣ニ中テ物死ニ時

重上ニ少計置テ水ニ滴入テ吉腫
如身内何クニテモ黒ク燒忽ニ死ル
腫物ニシタル時吉上ニ少置腫物ノ
廻ニモ付ヨ其後鯨ノ骨其ツ一分程酒
ニテ用テ吉癩毒ニ塗付テ良
一升此五ツ、リヨルイト 濕温性

スカヒヨウカト云草也此油取様ダニテ固氣
功能金ノ油同前但癩毒ニ不使葺
生ニト食ニテモ油同前惡氣ニ不
所中ト也向藥記ノ國ハ魔國ニ
惡キ風多故ニ人卒ニ死有

草ニテ此草ヲ酒ニ入毎朝用ト也此
草ヲ食スレハ毒虫ニ食レカシ杯
テモ身軀強成故ニ不痛ト也ア
油ト合テ用テ癩吉心痛ニ
草加煎用疱瘡小瘡ニ煎洗
テ吉腫タル處ニハ粉ニメ小麦粉加
水ニテ搽テ付テ吉折身クニキ
タル處ニモ吉血止ルニハ生ニテモ三付
テ吉能惡キ風ヲ祛物ニ外也
能有也

才此六ツ、リヨルイト 寒性

蠟ノ油也取様金ノ油上同前

功能瘧疾傷寒裏熱甚渴時

置湯水ニテモ湯ニテモ用火瘡ノ

身内何クニテモ黒ク有夏有時

此油ニ唐ノ土醋ト合テ付テ吉

一才モセヨリヨユルテシヒシイテ熱性

フシカンノ皮ノ油也取様檜科皮同前

取能腹中痛時酒ニテ二三滴用

テ吉食不進時モ用様同前

一才世カシヨリヨイニ 熱性

小蘇仁ノ油也取様粉ニ入蒸テシ

此ス日本胡麻ノ油同前

功能筋ヲ伸ル乳癰腫堅硬ヲ

患時付テ吉

一才世九ノリヨヒトルヨウニ火熱性

胆菴ノ油也取様粉ニ入百月水白

十月人琉璃ノラニヒキニテ煎取功能

腐肉ニ付ハ喰破リ腐ラ流ス症

ニ付ハ喰切也虫毒ニハ女指也食不

進時湯水ニテモ湯ニテモ用火瘡ノ

脾胃冷タル時モ用同前下血モ

齒前咽喉渴煩時米ニテ用織モ

團前吐逆ニモ月前脾胃痛熾時
ハ汝ノ花ノ蜜漬ノ汁カ 野引草花
ノ蜜漬ノ汁カ 雞ノユテ汁カニテ用
テ吉此強故ニ菜ハ不用

熱性

一才四十ツ、リヨルラ

硫黄ノ油也取様胆凡同前
功能喘息ニ用此油ハ一菜用テ不

答天胆胆凡油同前ニ用黒白癩

風ニ塗付テ吉疣切テ其切口ニ木

綿ヲ蓋セ其上ニ此油ヲ塗付ル疣ノ

根拔テ落ル物也疣拔タレ迹ニハ

リヨルノ油付テ咽喉痛時ハ白蜜里自

水一升石榴皮ニ拾月右煎查去此

油少入交合含咽痛處ニテコロバカ

味出スハシ少モ吞不入油取タレ迹ノ水

モ吉疣ヲ切タレニ切ル時ハ木綿高

モ意上ニ計付ヘシ少モ腸ニ不可散

寒性

一才四十ツ、リヨスル

銀ノ油也取様金ノ油同前
功能

小兒高赤瘡ニ塗テ良
一才四十二ツ、リヨセントハ
温性

蟻ノ油也此虫ヲホルトナル油ニ生十

カク入テ腐シ置使功能一切ノ毒去
ニサシテ痛時又リテ吉痛止ル燒

トニ吉

一才四十三ツリヨロシフルヨクニ熱性

蚯蚓油ノ取様蚯蚓シ多集テ酒浸

ニ一夜置テホルトカル油シ入テ煎水

氣無覺時布ニテヨク去使

功能牛足冷スツムニ吉一切ノ筋痛

吉盛ニ通ル油ノカノ痛止ル

一才四箇バルカモ

熱性

舟油樹様ノ事

能膽五女瓊珀七

檜脂十女 右三色ホルトカルノ油ニテ

能加減ニ煉合置ニ功能未ニ疾

也筋痛ニハ温テ付ル齒疼ニモ

吉耳ノ痛ニ入テ吉

一才四十五ツリヨクニス 温性

舟油樹様ハ 小麥根 九女 胡蘆芭

小麻仁十女 右三色粉ニテ熱湯

五合入攪更一夜置テ翌日ホルトカ

ノ油五合入煎水氣無是時布ニ

テカク去使是ハカスラケニラスト

云ル膏丹茶ニ入一茶使時ハ筋ノ伸

痛止

一才四十六 ヲリヨソラトロシ 寒性

以茄ノ油也取様ラウリイニ同前

功能熱冷之腫シ減ス丹毒瘡ニ吉

一才四十七 ヲリヨヒイデ 寒性

三七草ノ油也取様メニテ同前

功能ソトロン同前但切疵打疵ニ

吉

一才四十八 ヲリヨヒトウニ 冷性

小隨子ノ油也取様メニテ同前

功能牛尾卒ニ赤ク革ノ如自是

時ニ塗付テ吉疔具外熱病吉瘡

瘡ノ余毒ニ此草煎洗テ良

一才四十九 ヲリヨヒトウニ 大熱性

附子ノ油也取様肉桂同前

功能癰疽沉テ難腫上時塗テ吉

氣腫風主母一切ノ冷ヨリ灸無熱

テ不痛物ニ吉濕痰ノ腫物ニ吉

牛尾冷ニ吉此草ノ葉シ煎茶ニ使

草烏頭ニシテモ同前

一才五十 ヲリヨヒトウニ 温性

益母草一名荒蔚子ニ油取様

トシテ同前

功能血ヲ順血ヲ養水ヲ逐風ヲ

祛損痛ヲ止女ニ專用テ吉

シ洗テ吉花ハ浴帶シ世果ハ諸瘡ニ

付テ無痕熱タル処ニ吉寒熱骨

疼有テ吉熱シタル脚氣ノ草

煎煮洗テ吉

一才五十一ツリヨメリロウテ 濕

這草ノ油ニ取様クニテ同前

功能筋骨ノ痛ヲ和ル

一才五十二ツリヨイリキラス 性平

白欵ノ油也此油取様新茶ハ油ニ

七月程浸シ古茶ハ百日程浸シ

功能息臭時女宛用喉ノ内腫テ

痛時女宛用鼻ノ内ノ瘡ニ海

油ヲ先塗其後此油ヲ付テ吉昇

内ノ腫物ニハ苦アメントノ油ニ此油ヲ

合テ温テ耳ノ内ニ入テ良諸瘡口ノ

歛故ニヨシテ白欵ト云金瘡腫物ノ

愈肉ヲ上ル時内服スヘシ粉

ニモ吉熱シテ月赤ヲ除キ火毒ヲ

殺ス女陰腫痛ニ小兒ノ癩瘡等ヲ

一斗五十三ツ、リヨアメシ下 温性

唐桃實ノ油日本ノ桃仁モミ取様

粉ニメ蒸テシメ出スヘシ

功能耳痛ニ入テ吉

一斗五十四ツアト口ロガアロシ 寒性

液ノ花ノ水也新シキ花ツラシヒキニテ

煎取也風不引様ニメ置之乃熱症

レ物ニ吉血月洗ニ吉

一斗五十五ツアトロニク 熱性

信石ノ水也取様ハ信石粉ニメ取テ

水五合程入カキ更四五分置テ上澄ノ

水ヲ捨迹ツラシヒキニテ煎取此水ニテ

ヘシヒタルヲ焼也此水ヲア、ガク下

カ、グラス俱云也

ア、カ、ヒイテツ、ルニテリヨウリ大熱性

是ハ阿蘭陀茶酒ノ方也

焼酒 二斗五 肉桂 九十目

破仁 六文 良姜 五文

肉豆蔻 五文 干毒 七文

陳皮 七文 フシカ皮 七文

肉豆蔻花 三文 小茴香 二文

太茴香 三文 茨菰 四文

ホウリニヨラナサ女
ホウリウラスニシイル右肩
ホウリ感ヒヤサ女

右拾四味抹メ右ノ焼酒ニ入一夜
ラヒキニテ煎取テ其焼酒ニ

赤白且 六分 白且 六分

本草 六分 蘇葉 二分

鹿香 二分 沉香 二分

右六色極抹メ右ノ煎タル焼酒ニ

カキ支ニ時程置テ砂糖ニ其味

シ付付ル 功能

一風引頭痛スル時服テ吉

一腰下ル時少宛用

一胸塞心悸ニ用

一小便渋ル時用

一中風癰癩ニ吞セテ吉

一肩サキ冷タル時ハ 琥珀ノ油

テレメンテイノ油 ソシ松油

一荷香ノ油 此酒五色合塗付テ吉

一夜難寝入時米カニ塗付テ良一切ノ

風ヲ能祛物 身ヲ強テ吉

一脾胃風有テ冷タルニ吉 腹中風祛

一才五十七カ子イラ酒ノ方

一燒酒

一斗

一カ子イラ 一斤也

右カ子イラヲ燒酒ニ以浸置テ

テニヒキニテ煎破糖ニテ生味

功能脾胃ノ弱者爲テ吉氣ヲ強

メ度時用テ良

一青五十八ヨ子ヘシ酒ノ方

一燒酒

一斗

一ヨ子ヘシ

五合

右ヨ子ヘシヲ燒酒ニ夜浸テ

ニ煎取

功能腹中冷久時用小便淡時

用石淋ニ常々服テ胸ノ中ニ

用テ吉

一才再九如意金黃散

天花粉

十斤

黃柏

大黃

薑黃

各一斤

白芷

厚朴

陳皮

車中

蒼朮

南星

右極赫メ傳時寒熱風痰隨症

水蜜酒葱湯醋見合次才ニ調テ

付重瘧疸各背諸船打腫跌撲

損傷濕痰流毒漆瘡火丹

天泡乳層赤腫乾濕腫氣婦人

乳癰小兒丹毒治ス

一車^{六十一}五龍草散

車前草 葦葉草 五葉草 金銀花

右各六分抹陳米粉シ加常シ焙シ

如シ腫物押散シ六頃ヨリ塗リ付ル

シメヨスルニ四辺ニ付テ圍頂ヲ開ニ膏

茶シ付コ

一才六十一猪蹄湯 腫物洗茶

羌活 耳中芍藥 黃芩 白朮

當歸 蜂房名分猪前蹄一瓦

右爲粗抔ノ看瘡疽ト用茶多ク

先將猪前蹄一雙用白水六碗煮蹄

軟爲度將汁瀝清去汁上油花

菜一升投干汁中二再ニ用微火煎茶數

沸密絹シ以テ瀝去茶渣シ候湯半

熟將軟絹蘸湯ニ淋干瘡上輕

去瘀膿腐肉其惡物隨湯而下洗

試以絹帛搥乾傳ハ膏

一才六十一又洗茶

當歸 独活 白朮 耳中名錢

葱頭五箇

用水三碗煎至茶爛瀝去絹帛

蘸湯搥瘡上隨傳茶如每洗

時切忌風寒爲要常治背瘡之
輕者以此代猪蹄湯其切亦効

一才六十二 雄黃珍珠散治疔瘡

雄黃 珍珠 胡兀 薏苡 官粉炒 過

右亦分抹調勻瘡以白水洗淨人貼之

又蝸牛炒枯兀各亦分爲抹以白水

瘡洗淨燥則以麻油敷之濕則抹

茶可貼之

一才六十三 天花白芷散散血消腫益并爲瘡

天花粉 白芷 赤芍名育 蔚金中錢

右爲抹熟毒茶湯塗腫酒以是貼之

鼻血六頭頂以冷水貼之最血絡絕也

一才六十四 落馬打身

先以イラシ酒ニテ醉程服ニイラ

無是時八童便ニ好酒等分ニ合碗

進テ血攻心免ニ打身ニ熱豆腐肉

多貼スニ其豆腐肉紫色ニ變ハテ種

ニ或針シテニトウナラ以テ血吸接

モ亦可也瘡血下ス服茶方

大黃 七硝 枳壳名ニ子 厚朴名ニ取

陳皮 木香 紅花 蘊木名ニ車 芬

右煎水煎熱服以利爲度厚婦出也

不用天葵天蓋柴火子燒生之存
二抹カ每服二文黃酒三服七可也

又首實炒抹メニ酒三服能
繼骨シ能繼也

又白蔞黎炒抹メ每服錢酒三
用衣シ厚子シテ汗スヘシ

又敷茶方 山梔子生抹 五分

飛羅麵ニ文 生姜自然汁ニテ調患
所ニ傳ル一日一夜シテ皮肉色青黒有之

又葱白シ搗碎炒熱患處ニ敷冷化
時摸テ又敷腫痛則止

又菘豆粉シ炒印黃ニテ調付ニ書

一赤六十五 神仙解毒丸

アルカニ不拘多少トロリシ●是程ニ凡三

ニイヨツ抹メ衣ニシテ每服十粒葱

白七根煎以其湯服汁出ニ愈忌

成者不破未成者則消

功能治一切之疔瘡癩背骨諸般

惡瘡無名腫毒シ初染一服則消

一才六六類聖散 追切之疔瘡惡毒 腫疼痛不更

川烏草烏蒼朮細辛白芷

薄荷 防風 車中

右各藥分持メ印黄和調敷ヘシ

一才六十七追毒散治諸般皮膚瘡及無名

乳香 五分 没藥 五分 兒茶 二分

血竭 一分 青木香 二分 廣木香 五分

芙蓉葉 白皮 各 四寸目

右持メ敷時ニ生蜜ニテ和調木綿ニ

伸テ付ル三五度付ハ則消ス

一才六十八疥根拔

櫻皮 上皮去 刺持メ 早霜 二分 黒ヤキ膏

阿蘭陀外科下終 山田通碩

古子保十三戌申二月十日

下葉ハシリコシ小ハ區一押サテヘニシム

一上葉ハスラキニテス 區 右何ト傳

鴉掌丸

鯉魚腸 苦味中 未

蔓莖 煎汁 凡六

四



